

令和 6 年度大湊線乗降調査業務委託

業務報告書

令和 7 年 3 月



株式会社 ケーシー・エス

[目 次]

1. 業務概要	1
1-1 業務の目的等	1
2. 調査の概要	2
3. 調査の実施内容	3
3-1 実施スケジュール	3
3-2 配布物	3
3-3 調査項目の整理	3
3-4 調査票の作成	4
3-5 調査方法	5
4. 調査結果の分析	7

1. 業務概要

1- 1 業務の目的等

1- 1 - 1 業務の目的

- J R 大湊線の利用促進等に取り組むことにより、路線利用の拡大や下北半島圏域の活性化を図ることを目的として、日常的な路線利用者からの大湊線に対する意見やニーズ等を今後の方策に反映するために調査を実施する。

1- 1 - 2 業務の概要

- 本業務の概要は以下の通りである。

- ・ 調査設計、調査票作成等
- ・ 調査結果の分析

2. 調査の概要

- J R大湊線の利用促進等に取り組むことにより、路線利用の拡大や下北半島圏域の活性化を図ることを目的として、日常的な路線利用者からの大湊線に対する意見やニーズ等を今後の方策に反映するために調査を実施する。
- 調査の対象者は調査路線の利用者全員を対象とし、往復利用などで複数回利用される場合においても、1 運行ごとの利用実態を把握するため、調査の対象者とした。
- 調査方法は的確に利用実態やニーズ・意向等を把握するために、調査員が車両に乗り込み、目視による確認および乗客にアンケート調査票を直接配布する。また、高齢者等については、必要に応じてヒアリングによる聞き取り調査も実施する。
- 調査時期・期間については、日常的な利用実態を把握することを目的とするため、特異日（イベント時など）を避けた平日・休日（土日）併せて4 日程度とした。

表 調査の概要

項目	概要
調査路線	○JR 大湊線
調査区間	○むつ市・横浜町・野辺地町内
対象者	○利用者全員 ※複数回利用の場合でも調査対象とする（毎回調査）
調査方法	○調査員の配布によるアンケート調査
時期	○令和6年10月～11月の平日・休日（土日）併せて4日程度

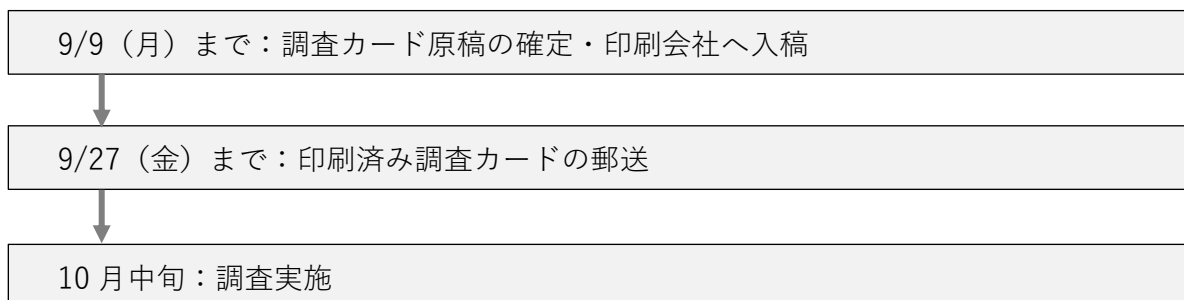
表 調査の役割分担

主体	調査の準備	調査の実施	整理・とりまとめ
発注者 (市)	・事業者に対し事前依頼 ・調査概要の確認・承認	—	・調査結果の確認
受託者 (KCS)	・調査の実施計画を作成 ・調査カードの設計・印刷	・調査の実施・現場管理	・入力・集計・分析 ・調査結果のとりまとめ
交通 事業者	・運行仕業表の提供	・乗務員等への周知徹底 ・調査実施の協力	・調査結果の確認

3. 調査の実施内容

3-1 実施スケジュール

○概ね以下のスケジュールで調査を実施する。



3-2 配布物

○本調査では、以下の印刷物を作成した上で、調査時に調査員より鉄道利用者へ配布する。

表 配布物の概要

配布物	概 要
調査カード	12cm×28cm 程度、白黒、両面印刷、2 列 17 段

3-3 調査項目の整理

○以下に本調査で把握すべき項目を整理した。

表 調査の把握内容（案）

記入者	調査項目	設問内容（概要）	設問設定の意図
調査員 （目視）	利用実態	● 路線名、便 ● 利用区間	● 利用者の OD の把握
利用者	基本属性	● 性別 ● 居住地 ● 学生	● 将来的に属性による回答傾向の差異の分析などに活用 ● 将来的にクロス集計を実施する際の基礎資料として活用
	公共交通の利用実態	● 利用の目的 ● 利用頻度	● 公共交通の利用実態を把握
	公共交通の不便・不満	● 利用路線に対する不便・不満	● 公共交通の不便・不満の内容を把握

3-4 調査票の作成

鉄道利用に関するアンケート調査 実施主体：ＪＲ大湊線活性化協議会	
調査員 記入欄 調査番号 乗車した 駅番号 降車した 駅番号 確認項目① 確認項目② 	○ウラの面の設問にお答えください。降りるときに回収いたします。 ○本日の全便で調査しております。 ○以前にご回答いただいた場合でもご協力をお願いしております。 大湊線に関する調査にご協力をお願いします。

あてはまる答えを選んで、折りこんでください。
折るところを間違えた場合は、もとに戻してください。

↓折り込む 折り込む↓		
むつ市		横浜町
下北地域 (むつ市以外)	あなたの お住まい の地域は？	野辺地町
三八地域		上北地域 (上記以外)
青森県内 (上記以外)		青森県外
買物	大湊線の 主な利用目的は なんですか？ (一つ選択)	通院・通所
通勤		通学
観光		帰省
出張		趣味・娯楽 その他
17回以上 (週4回以上)	ここ30日間で 何回 利用しましたか？ (一つ選択)	5～8回 (週1～2回)
13～16回 (週3～4回)		2～4回 (週1回程度)
9～12回 (週2～3回)		1回 (今回のみ)
電車の 乗り換え	大湊線を利用する上で、 不便・不満 に 感じることは ありますか？ (あてはまるものを全て選択)	便数が 少ない
車両が少ない		遅延・運休 が多い
運賃が高い		電子マネー が使えない
駅的环境		バリアフリー でない
駐車場が がせまい		駅周辺の 環境
目的地への アクセスが わからない		観光等の情報が みつからない
バスとの 乗り換え		駅にタクシー が少ない
バスの運行情報 がわからない		タクシーの連絡先 がわからない
ご協力ありがとうございました		

3- 5 調査方法

- 調査員は車両の入口付近に着席し、利用者が乗車した際に調査協力を依頼し、調査カードを手渡し、降車時に回収する。
- なお、乗降駅を把握するため、利用者に調査カードを手渡す前に便番号、乗車駅を記入することとし、同様に降車時には降車駅・性別・年齢等を記入し保管する。
- 1回の運行が終了後は、回収した調査カードの不備などを確認し、小袋（封筒）に便番号・路線名・回収票数を記入する。

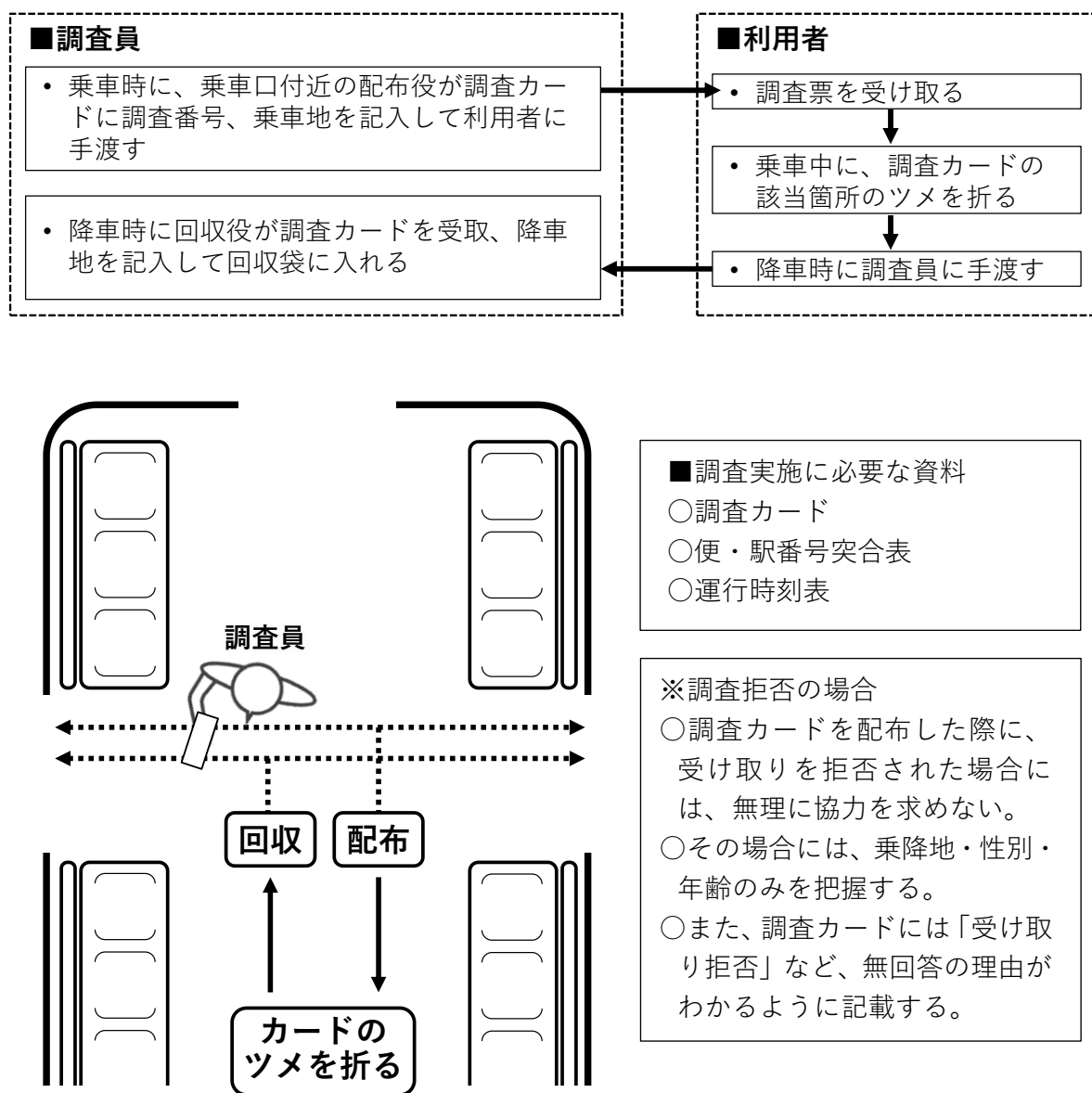


図 調査時の利用者の動き（イメージ）

○回収後、調査員記入欄の「降車した駅番号」を記入。

○調査員記入欄の「確認項目①」に性別、「確認項目②」に高齢者（65歳以上）かどうかを記載。※目視（見た目）で判断

鉄道利用に関するアンケート調査		実施主体：JR大湊線活性化協議会	
調査員記入欄 調査番号 乗車した駅番号 降車した駅番号 確認項目① 性別 確認項目② 年齢		大湊線に関する調査にご協力をお願いします。	
		〇〇〇ウラ面の設問にお答えください。降りるときに回収いたします。 〇〇〇本日の全便で調査してまいります。 〇〇〇以前にご回答いただいた場合でもご協力をお願いしております。	
あてはまる答えを選んで、折りこんでください。 折るところを間違えた場合は、もとに戻してください。			
↓折り込む ↑折り込む		↑折り込む ↓折り込む	
むつ市		横浜町	
下北地域 (むつ市以外)		野辺地町	
三八地域		上北地域 (上記以外)	
青森県内 (上記以外)		青森県外	
買物		通院・通所	
通勤		通学	
観光		帰省	
出張		趣味・娯楽 その他	
17回以上 (週4回以上)		ここ30日間で 何回 利用しましたか? (一つ選択)	
13～16回 (週3～4回)		5～8回 (週1～2回)	
9～12回 (週2～3回)		2～4回 (週1回程度)	
電車の 乗り換え		1回 (今回のみ)	
車両が少ない		便数が 少ない	
運賃が高い		遅延・運休 が多い	
駅の環境		電子マネー が使えない	
駐車場が がせまい		大湊線を利用する上で、 不便・不満 に 感じることは ありますか? (あてはまるものを 全て選択)	
目的地への アクセスが わからない		バリアフリー でない	
バスとの 乗り換え		駅周辺の 環境	
バスの運行情報 がわからない		観光等の情報が みつからない	
		駅にタクシー が少ない	
		タクシーの連絡先 がわからない	
ご協力ありがとうございました			

4. 調査結果の分析

- 次ページ以降に調査結果の概要を示す。
- 詳細な分析結果は資料編に示す。

【 目 次 】

調査の実施概要・・・P.2～6

結論と今後の方向性・・・P.7～13

調査結果詳細：移動状況・・・P.14～37

調査結果詳細：利用者の意見・意向・・・P.38～51

調査の実施概要

結論と今後の方向性

調査結果詳細：移動状況

調査結果詳細：利用者の意見・意向

実施概要

P3

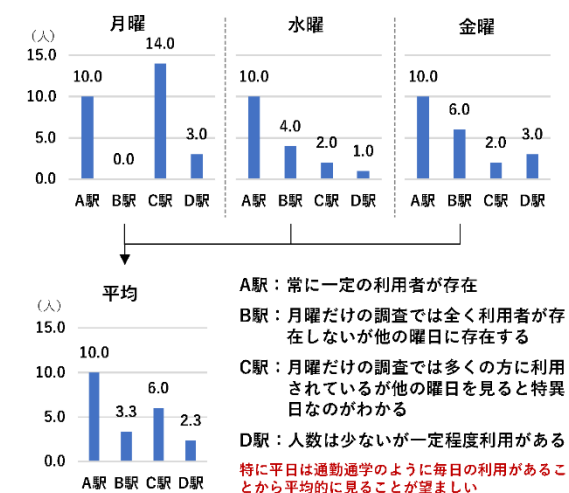
表 大湊線乗降調査概要

項目	内容
調査目的	○大湊線の利用者からの大湊線に対する意見やニーズ等を正確に把握するため
調査路線	○大湊線（次頁に路線図を示す。）
調査区間	○むつ市・横浜町・野辺地町内
対象者	○利用者全員 ※複数回利用の場合でも調査対象とした（毎回調査）
調査方法	○調査員の配布によるアンケート調査
実施日	○令和6年10月17日（木）1～9便 19日（土）1～9便 22日（火）1～9便（2, 7便以外） 29日（火）2, 7便のみ の計4日間 ※以降の集計は平日は3日間の日平均、休日は1日のみになることに留意。

表 日別回収票数

実施日	回収枚数
10月17日（木）	回収数：604票
10月19日（土）	回収数：589票
10月22日（火）	回収数：405票
10月29日（火）	回収数：122票
合計	回収数：1,720票

■利用者数を複数日で調査し、平均的に見るイメージ



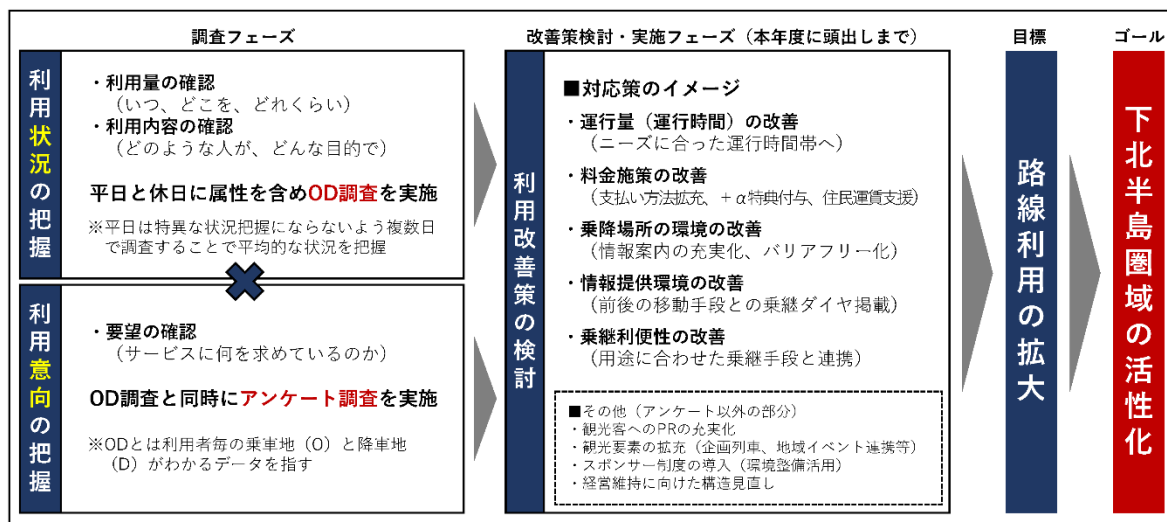
実施概要

P4



P5

(仕様書より引用)



P6

鉄道利用に関するアンケート調査

実施主体：JR大湊線活性化協議会

路線の識別 →

調査員記入欄

調査番号

乗車した駅番号

降車した駅番号

ODの把握 →

確認項目①

確認項目②

属性の把握
(年齢・性別)

大湊線に関する調査にご協力をお願いします。

○ウラ面の設問にお答えください。降りるときに回収いたします。

○本日の全便で調査しております。

○以前にご回答いただいた場合でもご協力をお願いしております。

あてはまる答えを選んで、折りにこんでください。

折るところを間違えた場合は、もとに戻してください

← 折り返す		折り返す →	
むつ市			横浜町
下北地域 (むつ市以外)	あなたの お住まい の地域は？		野辺地域
三八地域			上北地域 (上記以外)
青森県内 (上記以外)			青森県外
買物	大湊線の 主な利用目的は なんですか？ (一つ選択)		通院・通所
通勤			通学
観光			帰省
出張			趣味・娯楽 その他
17回以上 (週4回以上)	ここ30日間で 何回 利用しましたか？ (一つ選択)		5～8回 (週1～2回)
13～16回 (週3～4回)			2～4回 (週1回程度)
9～12回 (週2～3回)			1回 (今回のみ)
電車の 乗り換え	大湊線を利用す る上で、 不便・不満 に 感じることは ありますか？ (あてはまるものを 全て選択)		乗数が 少ない
車両が少ない			遅延・遅休 が多い
運賃が高い			電子マネー が使えない
駅の環境			バリアフリーで ない
駐車場が がせまい			駅周辺の 環境
目的地への アクセスが わからない			観光客の情報が みつからない
バスとの 乗り換え			駅にタクシー が少ない
バスの運行情報 がわからない			タクシーの連絡 がわからない

ご協力ありがとうございました

調査の実施概要

結論と今後の方向性

調査結果詳細：移動状況

調査結果詳細：利用者の意見・意向

調査結果まとめ

■路線の利用状況について

- 居住地別
 - ・主な利用者は、むつ市、横浜町の住民だが、周辺地域の住民だけでなく県外からの来訪者にも多く利用されている。
- 利用目的別
 - （生活利用：買い物・通院・通勤・通学、単発利用：観光・帰省・出張・趣味娯楽その他、無回答）
 - ・平日は生活利用の「通学」が最も利用が多く、休日は単発利用の「趣味娯楽その他」や「観光」が主な利用目的であった。
 - ・平日は生活利用（41.5%）、単発利用（43.3%）が同程度であり、休日は生活利用（17.8%）、単発利用（55.5%）と大きく差がある。
- 便別・利用目的別
 - ・平日の下り（野辺地駅→大湊駅方面）第1便（6：34発）は利用客の6.5%が「通学」に利用されている。
 - ・単発利用は、様々な時間帯で利用されているが、平日よりも休日の下りの第3～5便（10：22発、13：00発、16：00発）の利用が多い傾向にある。
 - ・上り（大湊駅→野辺地駅方面）の単発利用は、平日・休日ともに第2～3便（6:31発、8:09発）は主に沿線自治体（むつ市・横浜町・野辺地町）の住民が利用し、4便目（10:22発）以降はそれ以外の居住者の利用に変化する。
- 乗降者数の平日・休日比較
 - ・上記のように平日と休日では利用状況は変化するものの、1日あたりの総輸送量に大きな差はなかった。

■利用者ODについて

- 駅区間の利用
 - ・平日と休日および上下線の全ての状況の中でも野辺地駅⇄下北駅間の利用が最も多く、次いで野辺地駅⇄大湊駅間の利用が多い。
 - ・下北駅⇄大湊駅間の一駅の短距離移動も僅かだが存在している。
- 駅の利用者数
 - ・駅の利用者数については、主に有人駅である野辺地駅、下北駅、大湊駅の利用が多いが、無人駅では陸奥横浜駅が最も利用が多かった。
- 無人駅の利用状況
 - ・平日に比べ休日の大湊駅から乗車し赤川駅～吹越駅間で降車する利用が減少している。

■利用者からの不満等について

- ・最も多い不満として「便数が少ない」が生活利用・単発利用問わず挙がっている。
- ・平日の「便数の少なさ」に不満を持っている時間帯として、朝方（5時）は生活利用、日中（8時～16時）は単発利用、夕方・夜（17時～20時）は生活利用が多い。
- ・上記に次いで「車両数が少ない」「電子マネーが使えない」「電車の乗り換え」が比較的多い。
- ・平日の「車両の少なさ」に不満を持っている時間帯として、朝方（5時～6時）は生活利用、日中（10時～14時）は単発利用、夕方・夜（17時～20時）は生活利用が多い。
- ・「電子マネーが使えない」という不満は単発利用者が多い。
- ・平日の「乗り換え」に不満を持っている時間帯として、朝方（5時～6時）は生活利用、日中（10時～14時）は単発利用、夕方（17時～18時）は双方が多い。

■主な地域別の路線利用状況について

●沿線地域

・むつ市

利用割合：平日・休日ともに利用割合が高い。（平日21.8％、休日29.7％）

利用目的：（平日）通学が最も多く、出張・帰省と続く。生活路線と生活路線以外の単発利用は同程度の割合。

（休日）単発利用が7割以上を占める。趣味・娯楽等が3割超、出張・帰省、観光と続く。

特徴：自治体単位では最も利用が多い地域であり、平日と休日ともに、単発利用が生活利用を上回る。

・横浜町

利用割合：平日利用はむつ市と共に利用割合が多いが、休日に大きく利用が減る。（平日20.1％、休日10.9％）

利用目的：（平日）約9割が生活利用である。通学が8割弱、次いで通勤、買い物が続く。

（休日）約8割が生活利用である。通学が5割、買い物、趣味・娯楽等と続く。

特徴：通学利用が多くを占めており、そのため休日の利用割合は大きく落ち込む。

・野辺地町

利用割合：沿線3自治体で最も利用割合が低い。（平日1.7％、休日0.8％）

利用目的：（平日）利用者は主に通学、通勤と生活利用が多い。

（休日）利用は多くないが通学利用が数人いる。

特徴：地域住民の利用は少ないが、県内外からの利用の際に他路線からの乗り継ぎ駅として、野辺地駅が最も利用されている。

●沿線地域外

・青森県外

利用割合：平日・休日ともに利用割合が多い。（平日27.2％、休日22.2％）今回調査では平日の利用者が最も多かった。

利用目的：（平日）全て単発利用であり、観光・出張・帰省・趣味・娯楽等の順で利用されている。

（休日）平日と同様に全て単発利用であり、観光が5割を占める。

特徴：県内の各地域の利用者よりも、県外の利用者の方が多く、休日においては沿線自治体以外の県内地域の2倍以上であった。

利用目的も主に観光・帰省・出張であり、観光が平日・休日ともに最も多い。

今後の対応の方向性①（生活利用）

■ターゲット

- 今回の調査によって「平日の生活利用（通勤通学・買物・通院）」と「休日の単発利用（観光・趣味・娯楽など）」ともに一定程度の利用があり、1日の利用総数は平日と休日では大きな差がないことを把握。
- 年単位で考えた場合、圧倒的に平日の稼働日の方が多いことから、より多くの利用者を確実に獲得していくには平日の生活利用への対応が最も有効である。

■通勤・通学における利用者確保

- 特に平日の生活利用の用途としては、「通勤・通学利用」の割合が比較的高く、毎週平日5日間利用されることを想定すると、安定的に利用者を維持していくためには最も重要なターゲットである。
- なお、休日の「通学利用」や単発利用に含まれる「出張利用」についても、平日・休日ともに一定程度の利用があることにも留意が必要。

■通院・買物における利用者確保

- 一方で、「買物・通院利用」の割合が全体の中でも低いが、これらは沿線エリア内で定期的に発生しうる移動目的であることから、こちらも今後は育てていかなければならないターゲットである。

今後の対応の方向性②（単発利用）

P11

■ターゲット

- 今回の調査では、休日にも平日と同程度の総利用者数であり、利用者の移動目的は、平日は「**観光・帰省・出張**」の利用が同程度であり、休日は「**観光利用**」と「**趣味・娯楽利用**」が多くなることを把握した。
- 平日の生活利用よりも、利用者確保に向けては重要な視点であることから、以下に必要性を示す。

■趣味・娯楽における利用者確保

- 本調査では、休日において一定程度の「趣味・娯楽利用」を確認している。
- 一方で、過去に実施した「JR大湊線沿線自治体アンケート」の結果では「大湊線を利用しない理由」として「**日常生活の中で大湊線を利用する目的がないから**」という回答が「自家用車利用の方が便利だから」を上回り、最も多い回答となっている。
- 今後、利用者を増やしていくためには、これまで「趣味・娯楽利用」をしていなかった住民に対しても**利用のきっかけとなるような取組**が必要。

■観光における利用者確保

- 人口減少、少子高齢化が深刻化する中では**住民のみの利用者数の増加には限界がある**ことから、観光客は地域外から大湊線の利用を増やす重要なターゲットである。
- 特に、最重要ターゲットに含まれる「**学生**」は**夏休み等の休暇期間**があることから、期間中は利用が減少することが想定され、他所からの利用者確保が求められる。
- しかしながら、下北地域の主要な観光資源である「**恐山**」は**冬季（11月～4月）は閉山**することで、移動需要が減少することや、年間で恐山を上回る来訪者数がある「**釜臥山スキー場**」は**冬季が混雑期であるものの、最寄りバス停から遠い**といった問題も抱えている。
- なお、利用者からの不満として「車両の少なさ」が多く見られ、車内人員が多くなる時間帯での傾向がある。観光客は生活利用と比べて、**利用する時間の拘束性は低い**ことから、オーバーツーリズム対策等も含めて**車両人員を分散・誘導**することも必要。

現時点で想定される改善案

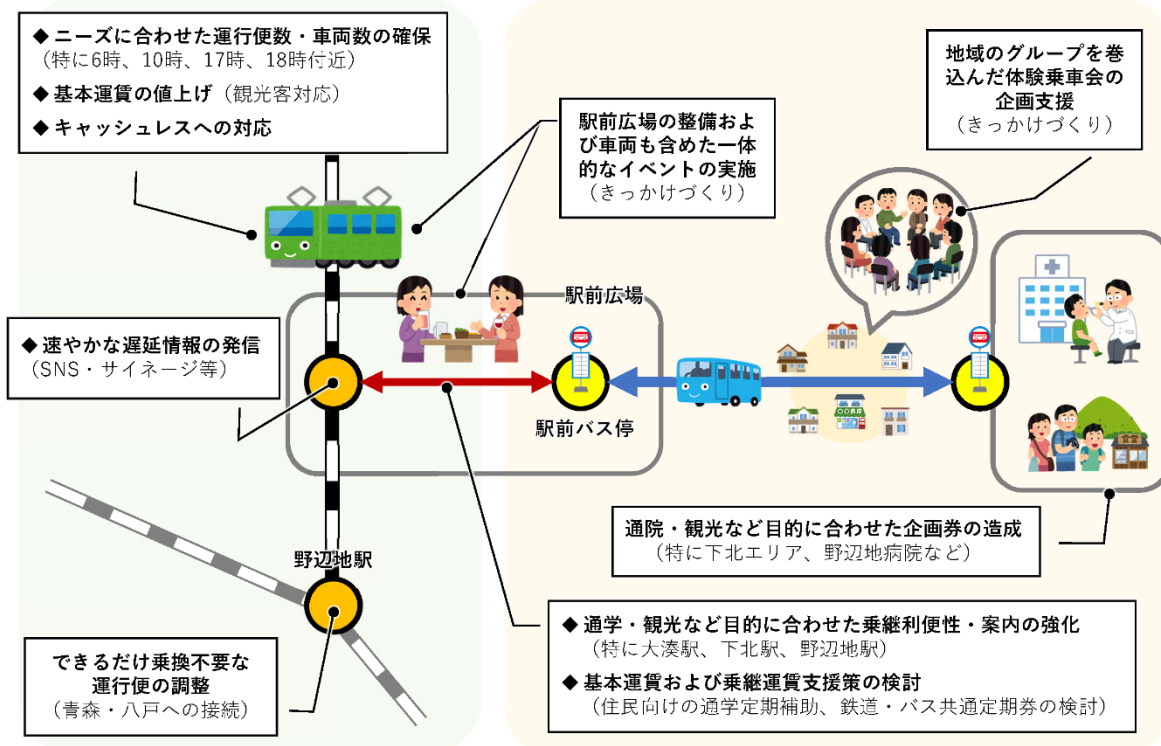
※実現性は今後、要確認

P12

生活利用向け	- 通勤通学時の帰宅時間を考慮した便の維持・調整 - 通勤通学MM（モビリティマネジメント）や定期券補助に関する施策の強化（企業・学校との連携） - 出張利用を想定した企業向けの定期券の検討 - 野辺地駅、陸奥横浜駅、下北駅、大湊駅のような主要駅と目的施設までの移動利便性の確保（二次交通の適正化） - 青森、八戸方面との移動も考慮した野辺地駅での乗継利便性の確保（通院利便性等の確保） - 乗継運賃支援策の検討 モビリティマネジメントとは：「環境や健康などに配慮した交通行動を、大規模、かつ、個別的に呼びかけていくコミュニケーション施策」であり、例えば自家用車利用者と公共交通利用者を比較した「メタボリックの割合」「家計的負担状況」「CO2等の環境への負荷」などを用いて公共交通の優位性、重要性などを呼びかける事が多い。
単発利用向け	- 既存の趣味・娯楽利用の使われ方を分析し、モデルコースとして提案 - 駅前周辺等のイベントと公共交通乗車券をセットにした企画券の造成 - 観光モデルコースと連携した生活利用者の利用時間帯を避けた利用案内等の実施（旅行計画検討時の周知） - 大湊線乗車券、釜臥山スキー場行きのバス乗車券（現在は未造成）、ロープウェイ利用券がセットになった企画券の造成 - 外国人向けのチケットの値段設定（日本語ページよりも高く設定）
その他	- キャッシュレス決済の整備促進 - 地域住民との大湊線の活用方法を考える会の実施（MM、意識醸成） - 帰省支援チケットの造成（実家が沿線自治体にある場合の割引など） - HP・SNS・サイネージ等による情報伝達

主に鉄道事業者による対応

主に地域およびバス事業者等による対応



調査の実施概要

結論と今後の方向性

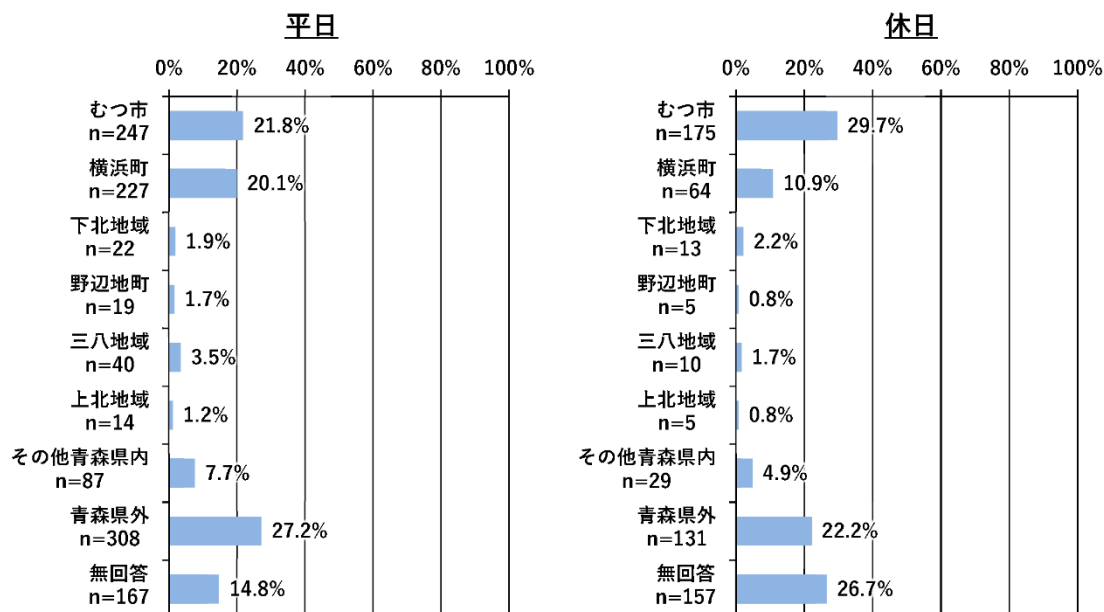
調査結果詳細：移動状況

調査結果詳細：利用者の意見・意向

居住地別の利用状況

P15

- ・居住地別の利用状況は全体的な状況としては平日と休日に大きな差異はないが、横浜町の休日利用が減少する傾向にある（休日は後述の通学利用が減少するため）。

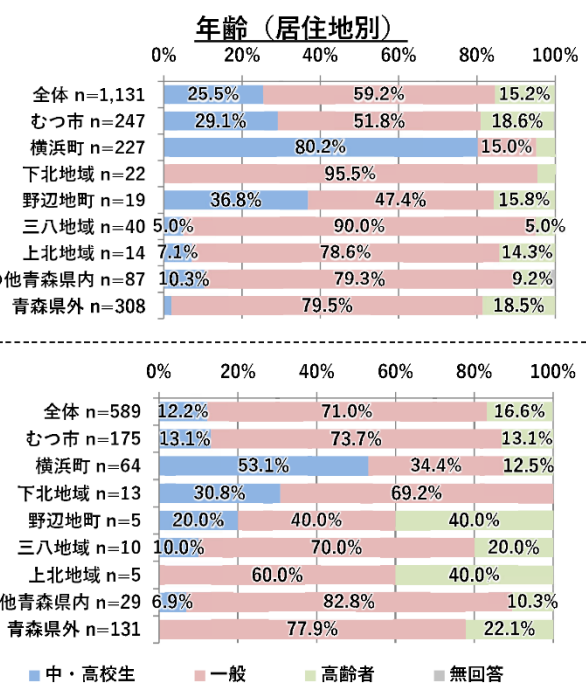
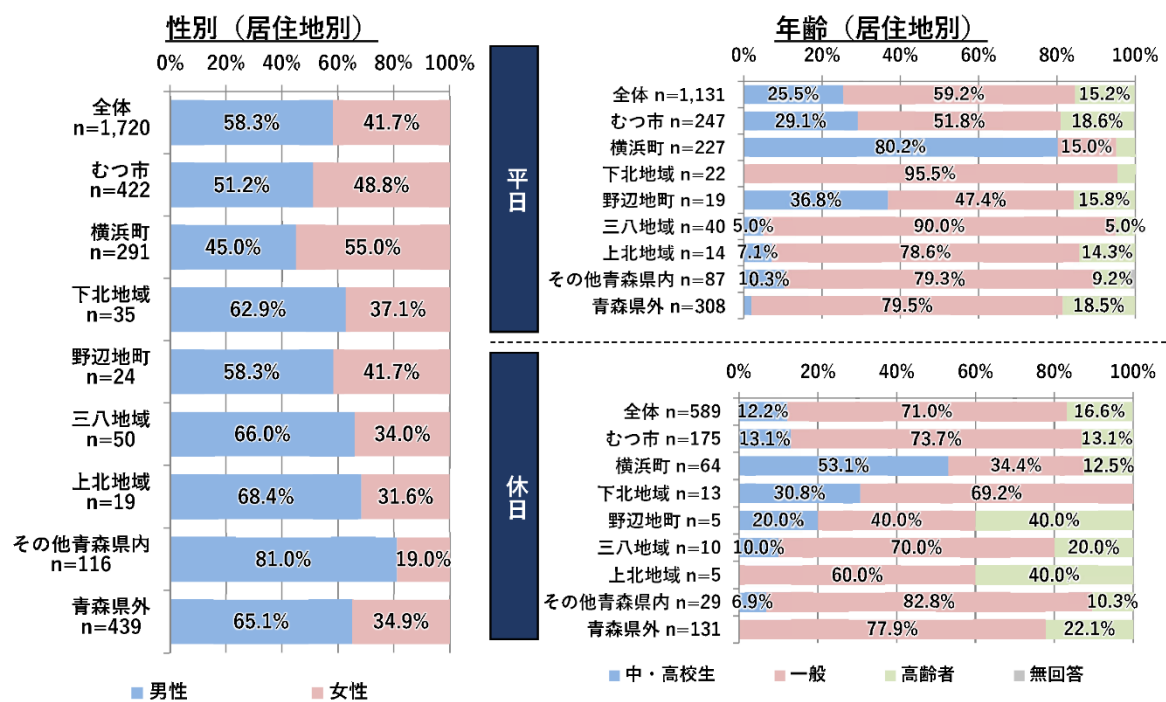


※下北地域…大間町・風間浦村・東通村・佐井村
三八地域…五戸町・八戸市・階上町・南部町・三戸町・田子町・新郷村
上北地域…六ヶ所村・三沢市・おいらせ町・六戸町・十和田市・七戸町・東北町

居住地別の年齢・性別

P16

- ・全体的な利用者の性別の割合としては男性による利用が多い。
- ・利用する年齢層は休日に中・高校生の利用が減少する傾向にある。

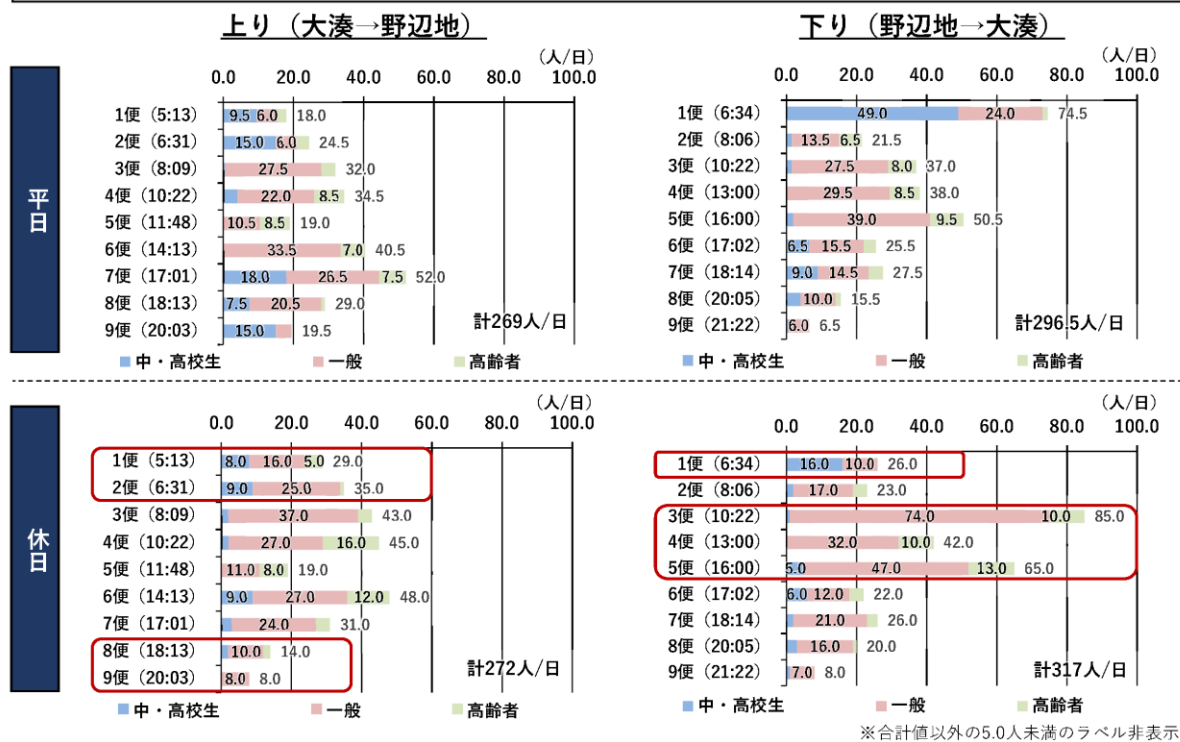


※5.0%未満非表示

便別・年齢別の乗降者数（平日・休日比較）

P17

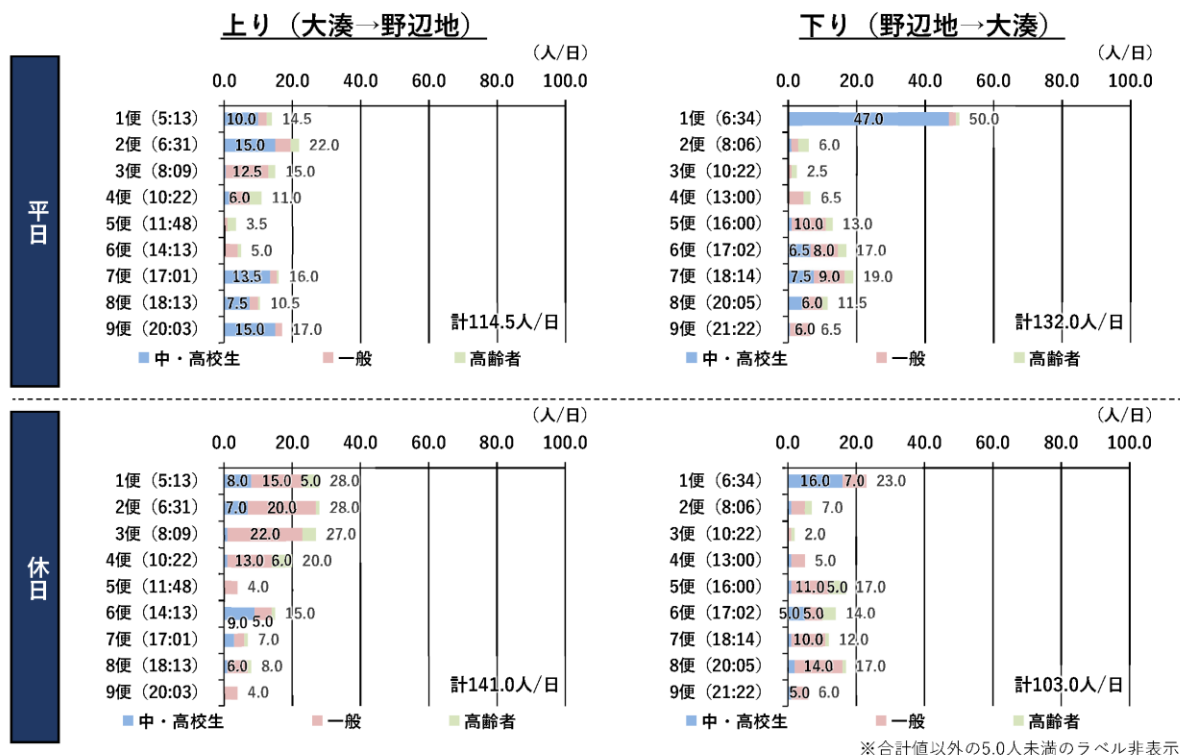
- ・上り：休日の朝の1, 2便は一般利用者が増加するものの、8, 9便では学生も一般利用者も減少する。
- ・下り：休日の朝の1便は全体的な利用者が減少するものの、日中の一般利用者が増加する傾向にある。



【参考】便別・年齢別の乗降者数（平日・休日比較）

P18

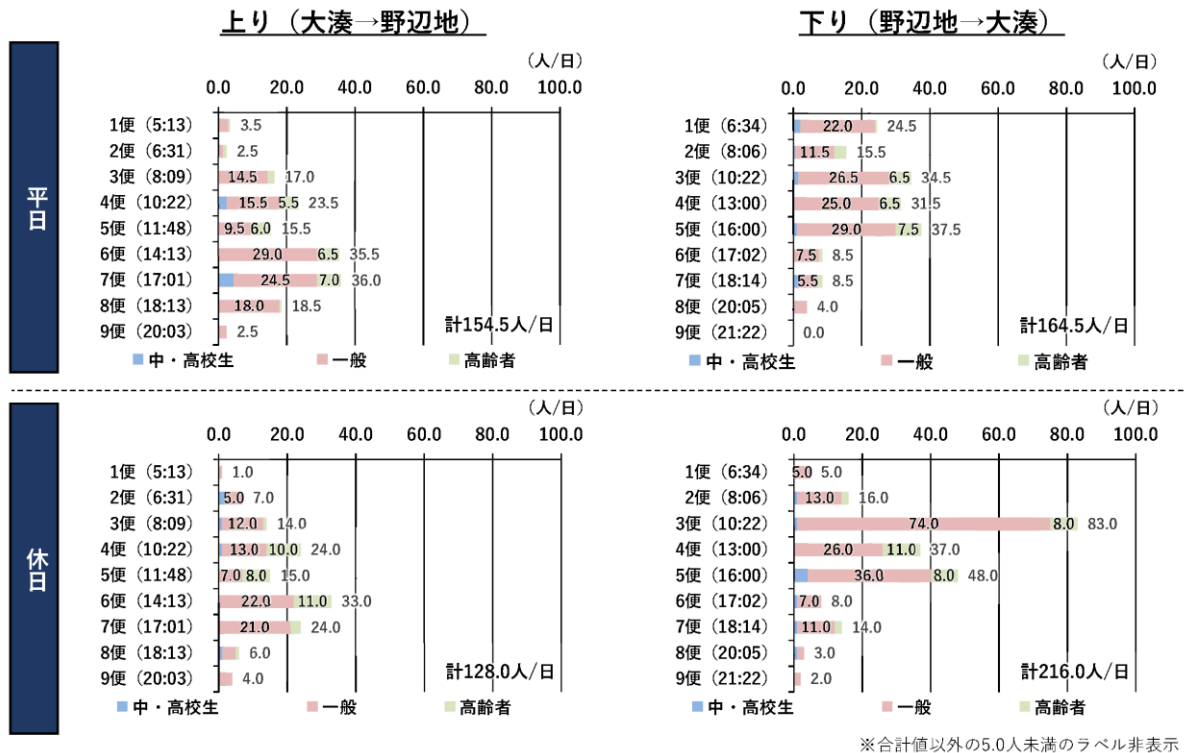
■むつ市、横浜町、野辺地町の場合



【参考】便別の乗降者数（平日・休日比較）

P19

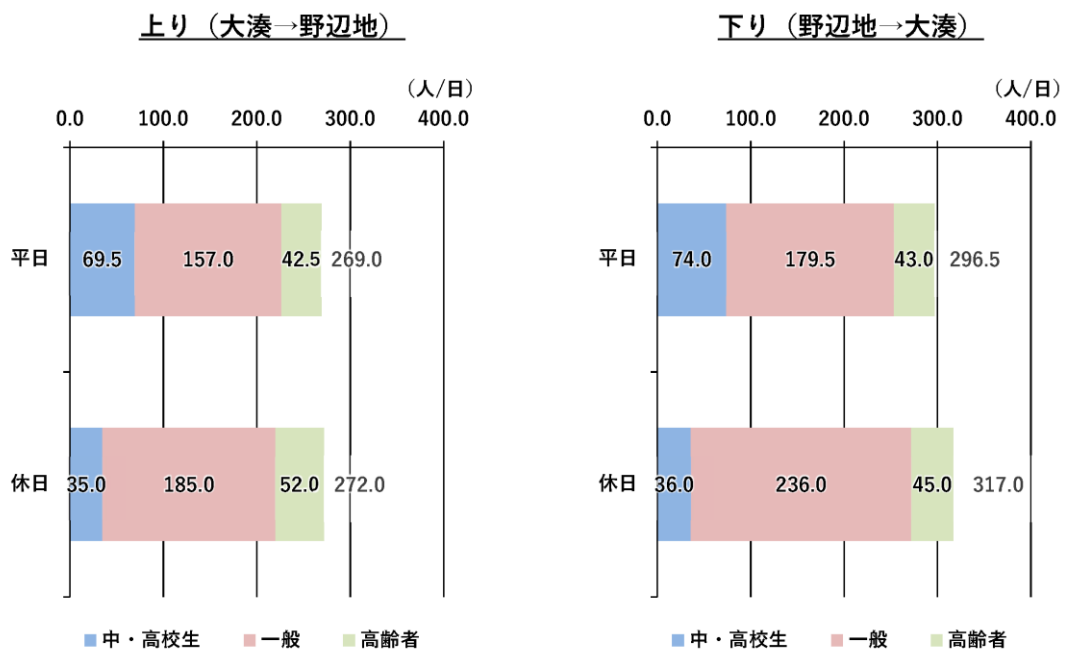
■むつ市、横浜町、野辺地町を除いた場合（居住地無回答者も含む）



合計乗降者数（平日・休日比較）

P20

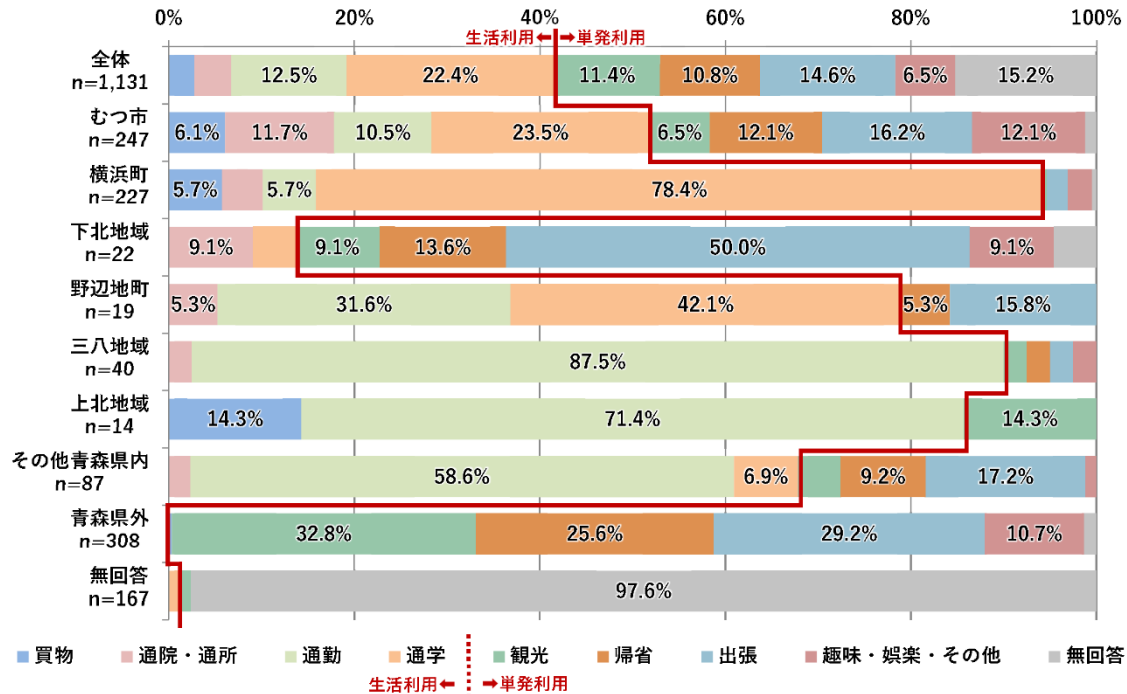
・利用者の属性によって内訳は変化するものの、平日・休日の全体的な利用者数に大きな違いはない。



居住地別の利用目的（平日）

P21

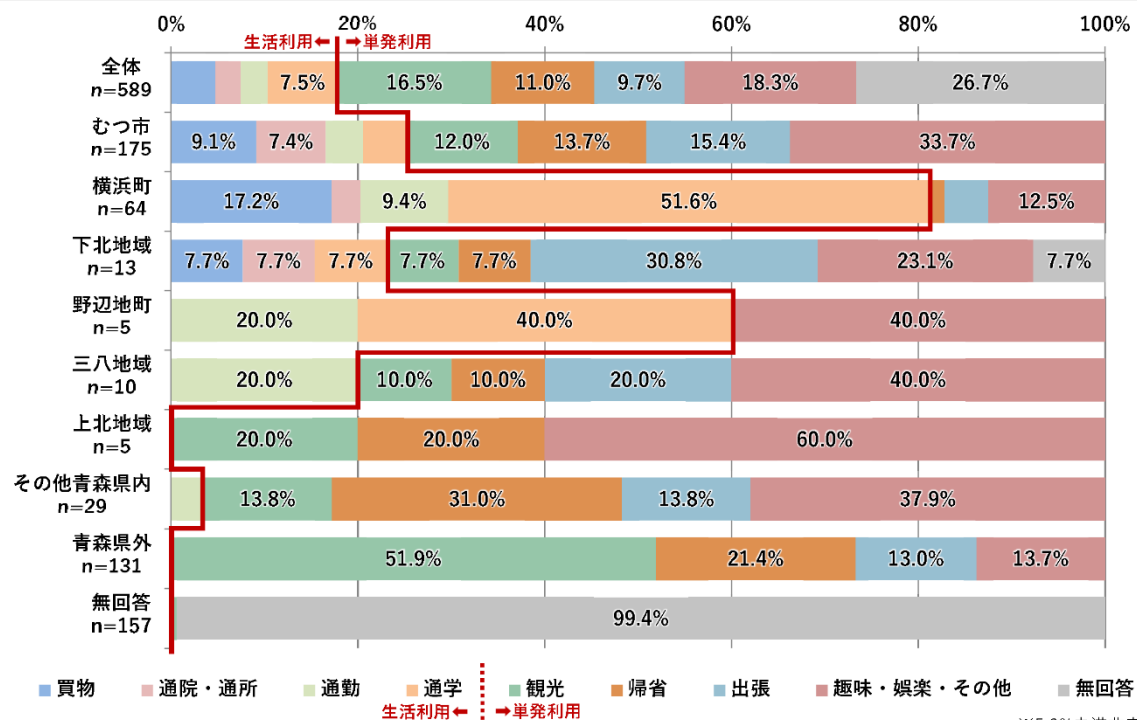
- ・主に通勤・通学のために用いられている傾向が強い。
- ・通勤・通学に次いで出張、観光、帰省と続き、平日の利用目的は生活利用と単発利用の割合は同程度であった。



居住地別の利用目的（休日）

P22

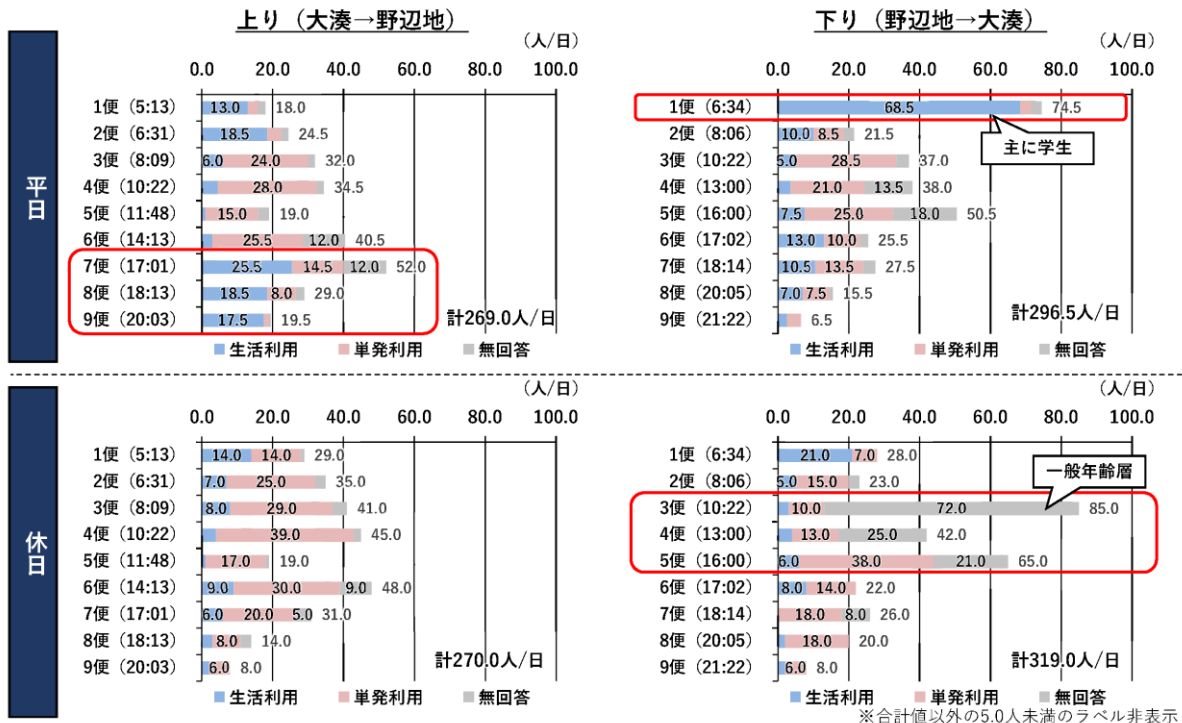
- ・平日と比べ観光や趣味・娯楽利用が増加する傾向にある。
- ・居住地別にみると、横浜町、野辺地町では生活利用（特に通学）が多い割合を示した。



便別・利用目的別の乗降者数（平日・休日比較）

P23

- 生活利用の主な特徴として、平日の下り1便に利用（通学）が集中しているが、上りでは7～9便の利用が多く帰宅に利用されている。
- それ以外の生活利用は分散しており、多くの時間帯が単発利用者が多い状況となっている。
- なお、利用目的が不明ではあるが休日の下り3～5便の利用が多い状況にあり、年齢層からも単発利用であると推測できる。



【参考】便別・利用目的別の乗降者数（平日・休日比較）

P24

■むつ市、横浜町、野辺地町の場合



P25

下り（野辺地→大湊）



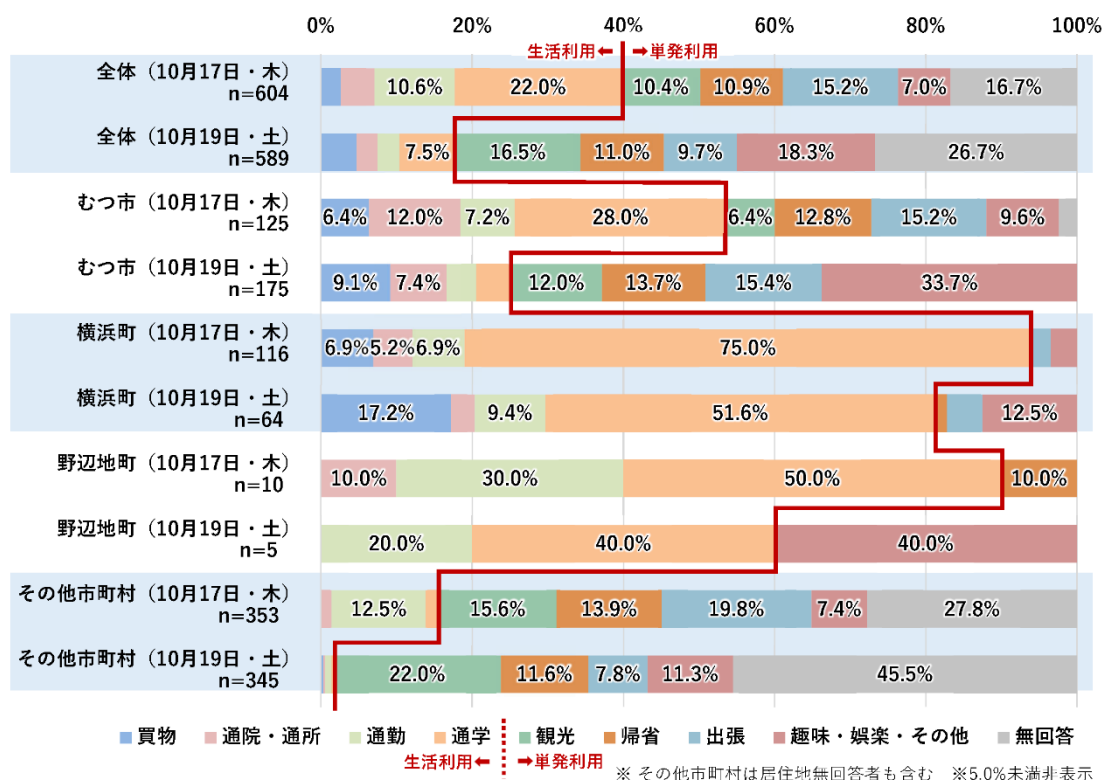
P26



※火曜日は22日に調査出来なかった時間の便のみ29日に調査しているため合算

【参考】平土単日地域別利用目的の比較

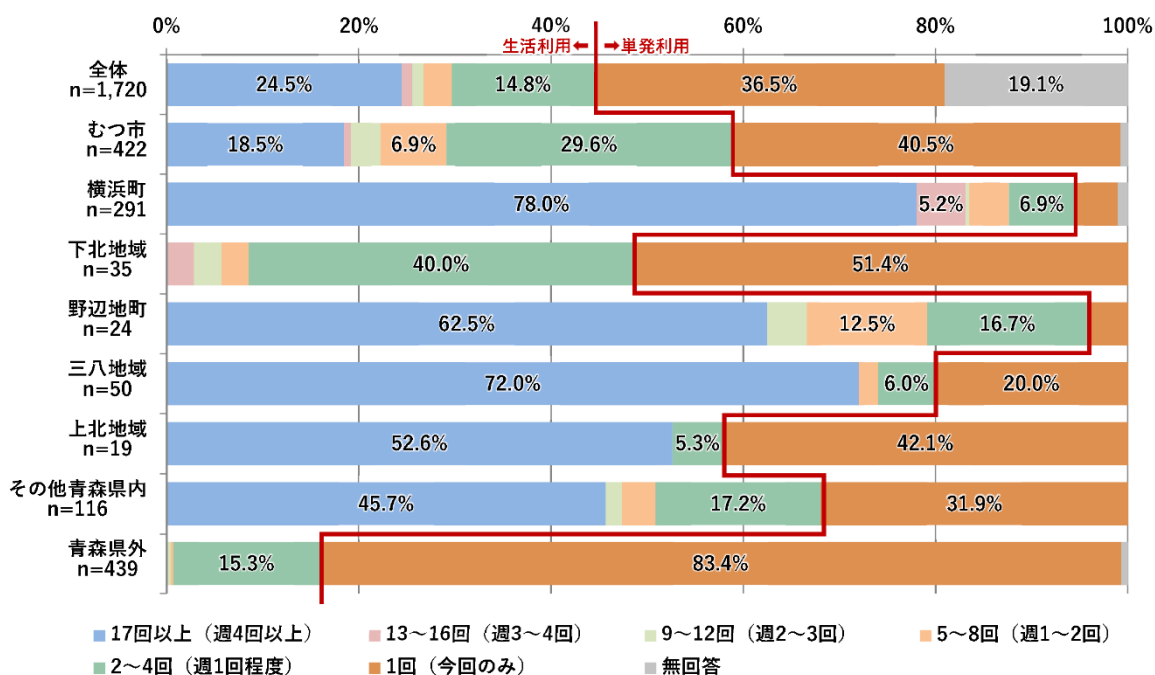
P27



居住地別の利用頻度

P28

- ・県外在住者が一定程度存在するため1回のみが多いが、通勤・通学利用が多いことから月に17回以上利用する利用者が次いで多い。
- ・県外在住に次いで多いむつ市在住でも月1回の利用者が一定程度存在する。



OD表とは

P29

OD表とは、どこで乗って【Origin（起点）】、どこで降りた【Destination（終点）】かを一覧化したものであり、利用が最も多い2駅間の移動を「最も多い数値が交わる駅間」を参照することで把握が可能。

乗車 \ 降車	大湊	下北	赤川	金谷沢	近川	有畑	陸奥横浜	吹越	有戸	北野辺地	野辺地	乗り越し	合計
乗り換え													
大湊		8	1	1	7	12	14	4			53	40	140
下北			3	8	2	10	21	5		5	180	85	319
赤川							1	1			2		4
金谷沢													0
近川										1		1	2
有畑										1	4		5
陸奥横浜								2			41	2	45
吹越											11		11
有戸											3		3
北野辺地											9		9
野辺地													0
合計	0	8	4	9	9	22	36	12	0	7	303	128	538

「下北駅」で乗って
「野辺地駅」で降車し
ている利用が最も多い

「大湊駅」から
乗車した利用者
140人がどの駅
で降車している
か表示

OD表（平日上り・下り）※合計

P30

- 平日の上り・下りともに、下北駅－野辺地駅間の移動が最も多い結果となった。（全体の約3割がこの区間での移動）
- 無人駅（大湊・下北・野辺地駅以外）の利用者は、上り79名（14.6%）、下り124名（20.9%）である。
- 無人駅の利用者のうち、陸奥横浜駅の利用者は、上りで56.9%、下りが44.3%であった。

上り（大湊駅→野辺地駅）

乗車 \ 降車	大湊	下北	赤川	金谷沢	近川	有畑	陸奥横浜	吹越	有戸	北野辺地	野辺地	乗り越し	合計
乗り換え													0
大湊		8	1	1	7	12	14	4			53	40	140
下北			3	8	2	10	21	5		5	180	85	319
赤川							1	1			2		4
金谷沢													0
近川										1		1	2
有畑										1	4		5
陸奥横浜								2			41	2	45
吹越											11		11
有戸											3		3
北野辺地											9		9
野辺地													0
合計	0	8	4	9	9	22	36	12	0	7	303	128	538

下り（野辺地駅→大湊駅）

乗車 \ 降車	野辺地	北野辺地	有戸	吹越	陸奥横浜	有畑	近川	金谷沢	赤川	下北	大湊	乗り越し	合計
乗り換え													0
野辺地		8	1	5	38	1	2	3	200	46			304
北野辺地						1			1				2
有戸													0
吹越					3			2	9	4			18
陸奥横浜					1			2	29	23			55
有畑									10	8			18
近川									3	10			13
金谷沢								1	7	2			10
赤川									4	4			8
下北										25			25
大湊													0
合計	0	9	1	5	50	2	2	0	8	371	145	0	593

【参考】OD表（火曜日上り・下り）

P31

上り（大湊駅→野辺地駅）

乗車 \ 降車	大湊	下北	赤川	金谷沢	近川	有畑	陸奥横浜	吹越	有戸	北野辺地	野辺地	乗り越し	合計
乗り換え													0
大湊		5	1		3	5	7	2			27	15	65
下北			2	4	1	4	6	2		2	95	30	146
赤川								1					1
金谷沢													0
近川													0
有畑											2		2
陸奥横浜											22	2	24
吹越											7		7
有戸											1		1
北野辺地											4		4
野辺地													0
合計	0	5	3	4	4	9	13	5	0	2	158	47	250

下り（野辺地駅→大湊駅）

乗車 \ 降車	野辺地	北野辺地	有戸	吹越	陸奥横浜	有畑	近川	金谷沢	赤川	下北	大湊	乗り越し	合計
乗り換え		1		4						47	7		59
野辺地		3		2	19		1		2	101	24		152
北野辺地						1							1
有戸													0
吹越								1	4	2			7
陸奥横浜									13	13			26
有畑									5	4			9
近川									1	5			6
金谷沢									3	1			4
赤川									2	1			3
下北										10			10
大湊													0
合計	0	4	0	2	23	1	1	0	3	176	67	0	277

※火曜日は調査日2日間の合計

【参考】OD表（木曜日上り・下り）

P32

上り（大湊駅→野辺地駅）

乗車 \ 降車	大湊	下北	赤川	金谷沢	近川	有畑	陸奥横浜	吹越	有戸	北野辺地	野辺地	乗り越し	合計
乗り換え													
大湊		3		1	4	7	7	2			26	25	75
下北			1	4	1	6	15	3		3	85	55	173
赤川							1				2		3
金谷沢													
近川										1		1	2
有畑										1	2		3
陸奥横浜							2				19		21
吹越											4		4
有戸											2		2
北野辺地											5		5
野辺地													
合計		3	1	5	5	13	23	7		5	145	81	288

下り（野辺地駅→大湊駅）

乗車 \ 降車	野辺地	北野辺地	有戸	吹越	陸奥横浜	有畑	近川	金谷沢	赤川	下北	大湊	乗り越し	合計
乗り換え				4						61	16		81
野辺地		5	1	3	19	1	1		1	99	22		152
北野辺地										1			1
有戸													0
吹越					3			1	5	2			11
陸奥横浜					1			2	16	10			29
有畑									5	4			9
近川									2	5			7
金谷沢								1	4	1			6
赤川									2	3			5
下北										15			15
大湊													0
合計	0	5	1	3	27	1	1	0	5	195	78	0	316

OD表（休日上り・下り）

P33

- ・休日とも平日と同様、上り・下りとも下北駅～野辺地駅間の移動が最も多い結果となった。（全体の約3割がこの区間での移動）
- ・無人駅（大湊・下北・野辺地駅以外）の利用者は、上り24名（8.8%）、下り33名（10.3%）であり、平日と比較して大きく減少した。
- ・無人駅の利用者のうち、陸奥横浜駅の利用者は、上り54.1%、下り39.3%である。

上り（大湊駅→野辺地駅）

乗車	降車	大湊	下北	赤川	金谷沢	近川	有畑	陸奥横浜	吹越	有戸	北野辺地	野辺地	乗り越し	合計
乗り換え														0
大湊			10					2	1			59	24	96
下北				2	2		7	8	1			89	41	150
赤川								1	1					2
金谷沢												1		1
近川												2	1	3
有畑												1		1
陸奥横浜												13		13
吹越												1		1
有戸												1		1
北野辺地												2		2
野辺地														0
合計		0	10	2	2	0	7	11	3	0	0	169	66	270

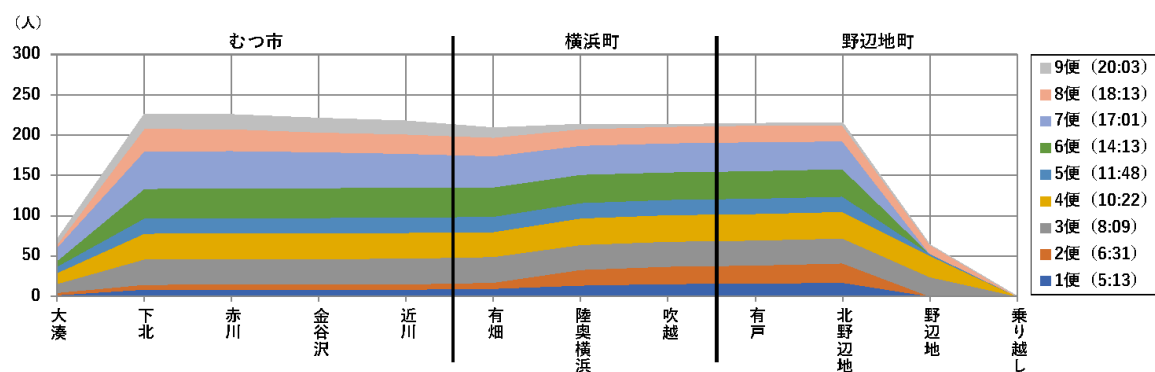
下り（野辺地駅→大湊駅）

乗車	降車	野辺地	北野辺地	有戸	吹越	陸奥横浜	有畑	近川	金谷沢	赤川	下北	大湊	乗り越し	合計
乗り換え						2					85	29		116
野辺地			3	2	1	7	2	1		1	100	31		148
北野辺地														0
有戸														0
吹越						1				1	3	1		6
陸奥横浜							1			1	6	5		13
有畑											8	1		9
近川														0
金谷沢											2			2
赤川											3			3
下北												20	2	22
大湊														0
合計		0	3	2	1	10	3	1	0	3	207	87	2	319

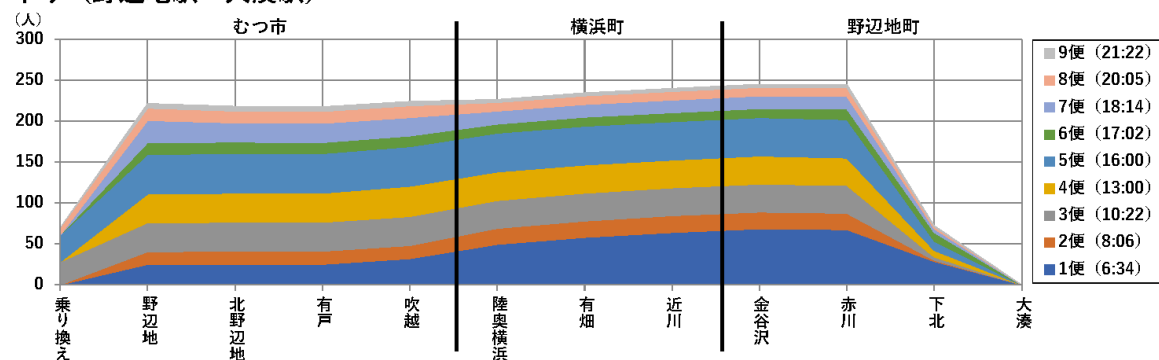
【参考】便別駅別車内人員（平日上り・下り）

P34

上り（大湊駅→野辺地駅）



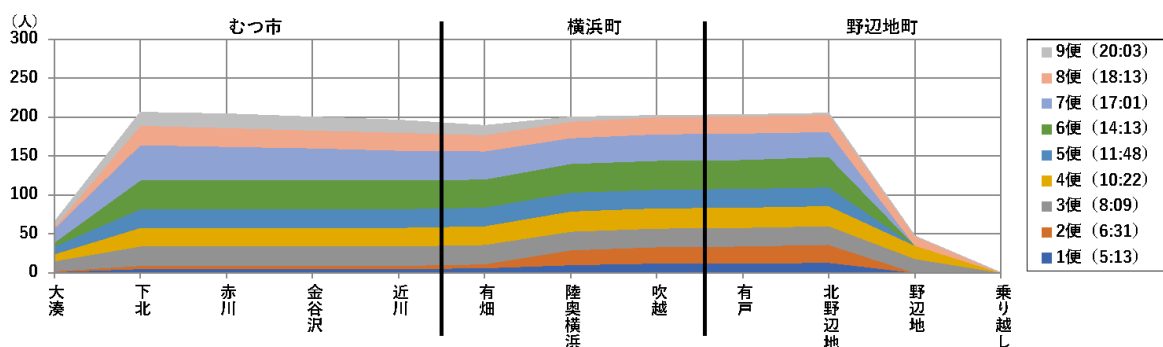
下り（野辺地駅→大湊駅）



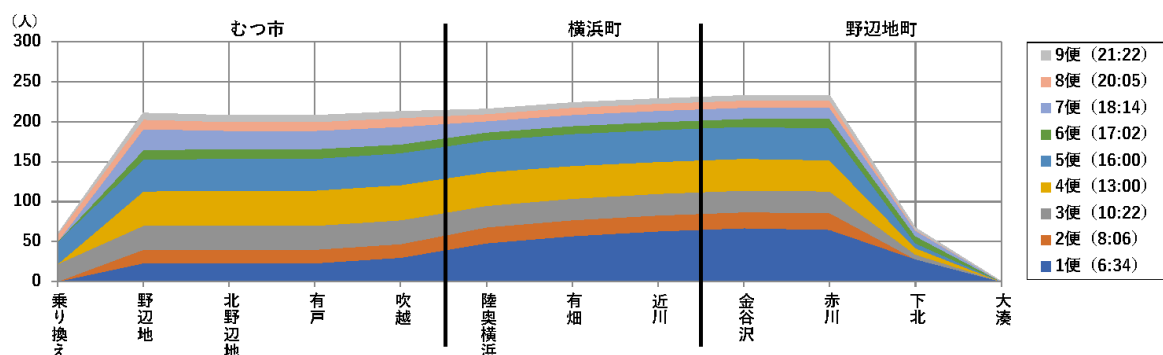
【参考】便別駅別車内人員（火曜上り・下り）

P35

上り（大湊駅→野辺地駅）



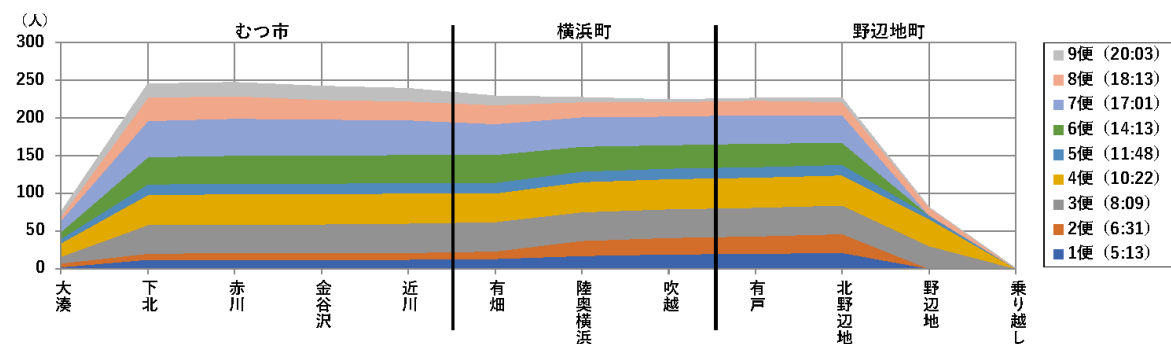
下り（野辺地駅→大湊駅）



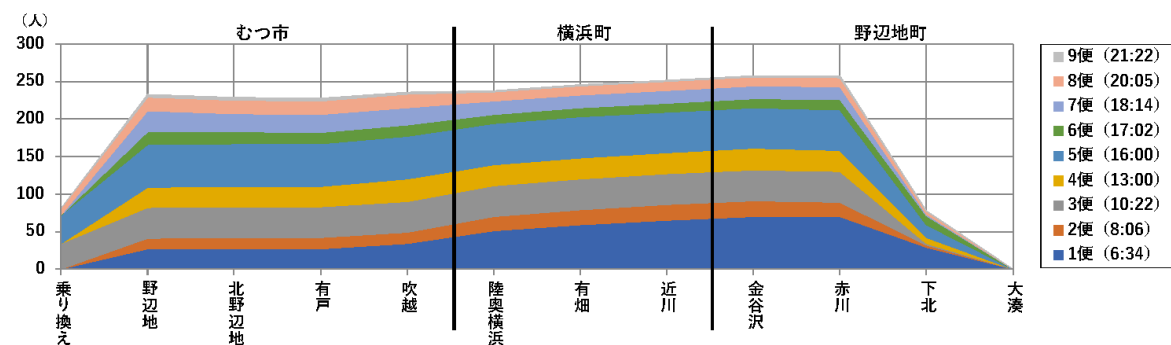
【参考】便別駅別車内人員（木曜上り・下り）

P36

上り（大湊駅→野辺地駅）



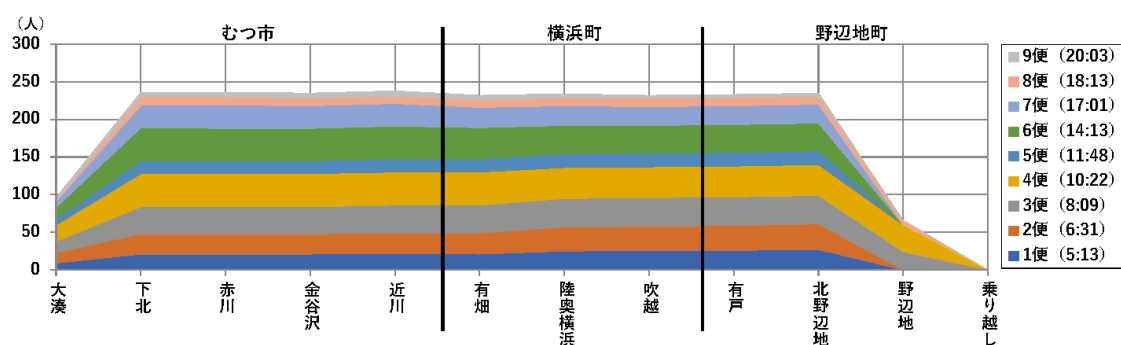
下り（野辺地駅→大湊駅）



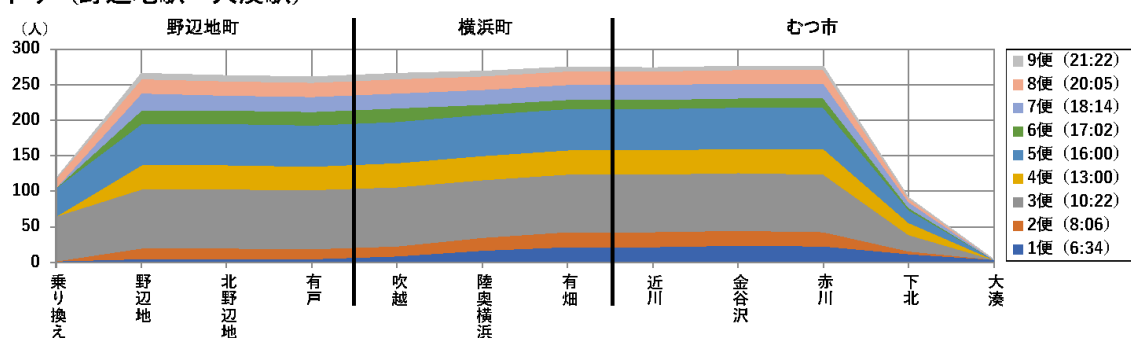
【参考】便別駅別車内人員（休日上り・下り）

P37

上り（大湊駅→野辺地駅）



下り（野辺地駅→大湊駅）



P38

調査の実施概要

結論と今後の方向性

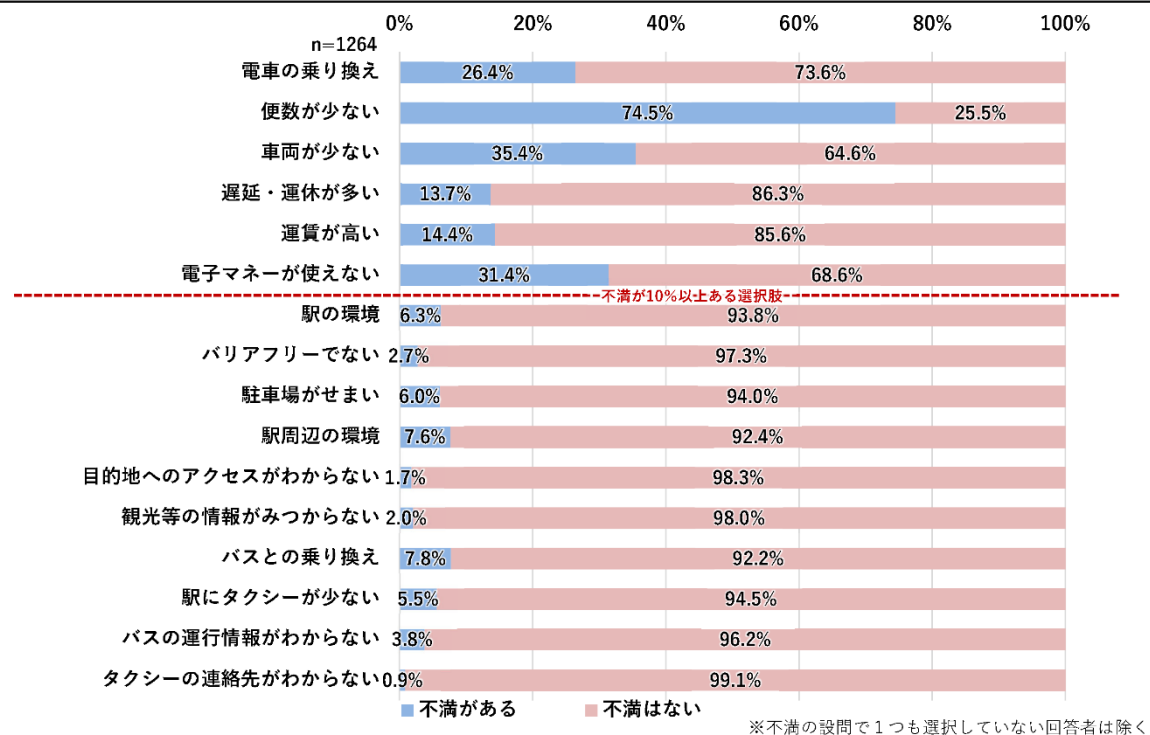
調査結果詳細：移動状況

調査結果詳細：利用者の意見・意向

利用時の不満有無

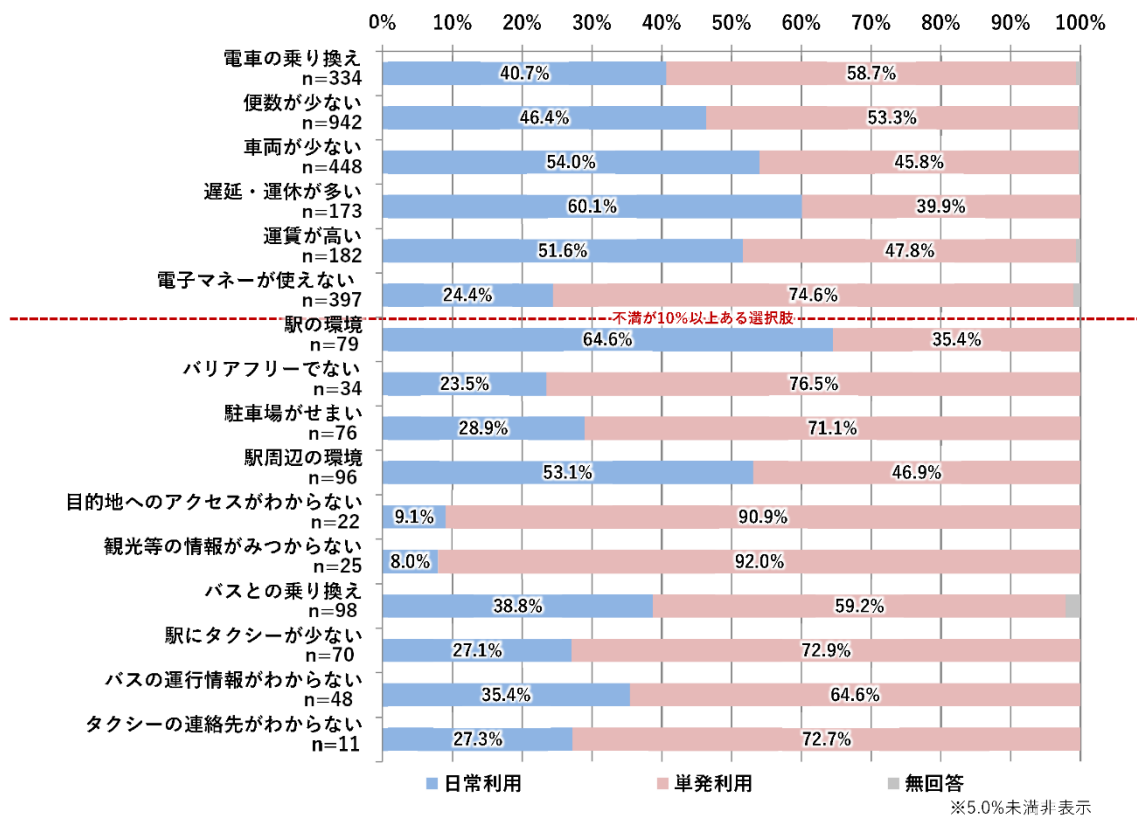
P39

・回答者の運行に対する不満としては「便数が少ない」ことが最も多く、次点で「車両が少ない」「電子マネーが使えない」「電車の乗り換え」と続く。



【参考】不満保有者の移動目的

P40



10%以上の不満に対する状況

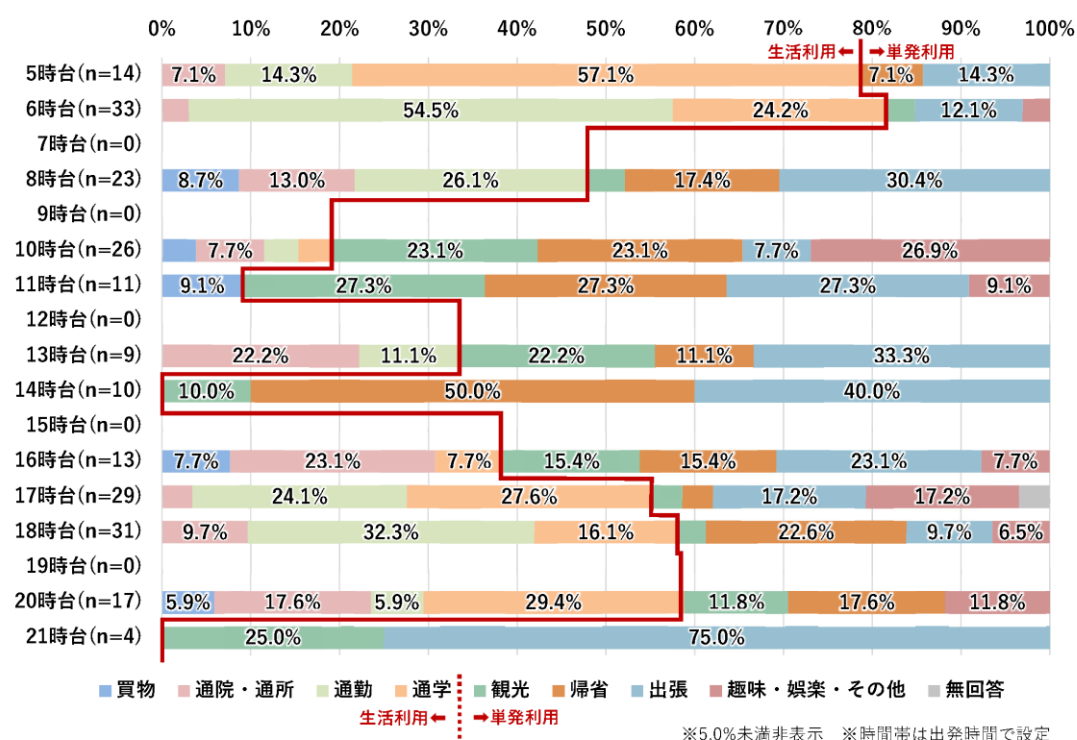
P41

不満	状況
便数が少ない (74.5%)	- 簡単に増便することは難しいため利用ニーズを踏まえながら対応が必要。 - なお、沿線住民アンケートでも「平日の運行本数の増便」が比較的高い要望となっている。
車両が少ない (35.4%)	鉄道の運用上、混雑する時間帯のみ車両を増やすことは難しいことから全ての時間帯で車両を増やす場合、車両速度および運行経費に変化が生じるとともに、連結数も駅のホームの長さに対応する必要がある。
電子マネーが使えない (31.4%)	- 県外観光客からの要望が高く、同時期に実施している路線バス乗り込み調査においても、観光路線である「恐山線」利用者からの要望も高い。 - なお、沿線住民アンケートでも「Suicaへの対応」が比較的高い要望となっている。 - DX推進の考え方からも積極的に対応が求められる。
電車の乗り換え (26.4%)	沿線住民アンケート結果より「八戸駅直通増便」や「青い森鉄道との乗り継ぎ改善」についての指摘であると想定（特にむつ市民からの重要度が高い）。
運賃が高い (14.4%)	- 地域住民からの要望が高く、観光客からの要望は少ないため、観光地価格を検討しつつも地域住民が安く利用できる施策を検討することで収入を増加できる可能性がある。 - 利用頻度的に週に1回利用（1ヶ月あたり8乗車）が平日毎日の利用に次いで多いことから、定期券の金額は8乗車以上使うとお得になれば訴求する可能性がある。 - 野辺地駅⇄野辺地病院間の公共交通無料券が付いてくるなどの特典付き定期券の造成など。
遅延・運休が多い (13.7%)	やむを得ない事情もあるため、速やかな情報伝達環境を整備することで利用者の不安を低減できる可能性がある。
その他 10%以下の不満	- 要望は低いものの「利用者を増やす」という点では必要な項目も多いため、特に「情報発信」の点で旅行の行程を検討する際に公共交通が選択肢に挙がるような「目視の機会の創出」「情報の統一・集約」「わかりやすさの向上」が重要。 - なお、沿線住民アンケートで不満傾向が高かった「駐車場・駐輪場」に関する指摘はそれほど多くなかった。

【参考】利用時の不満（電車の乗り換え）

P42

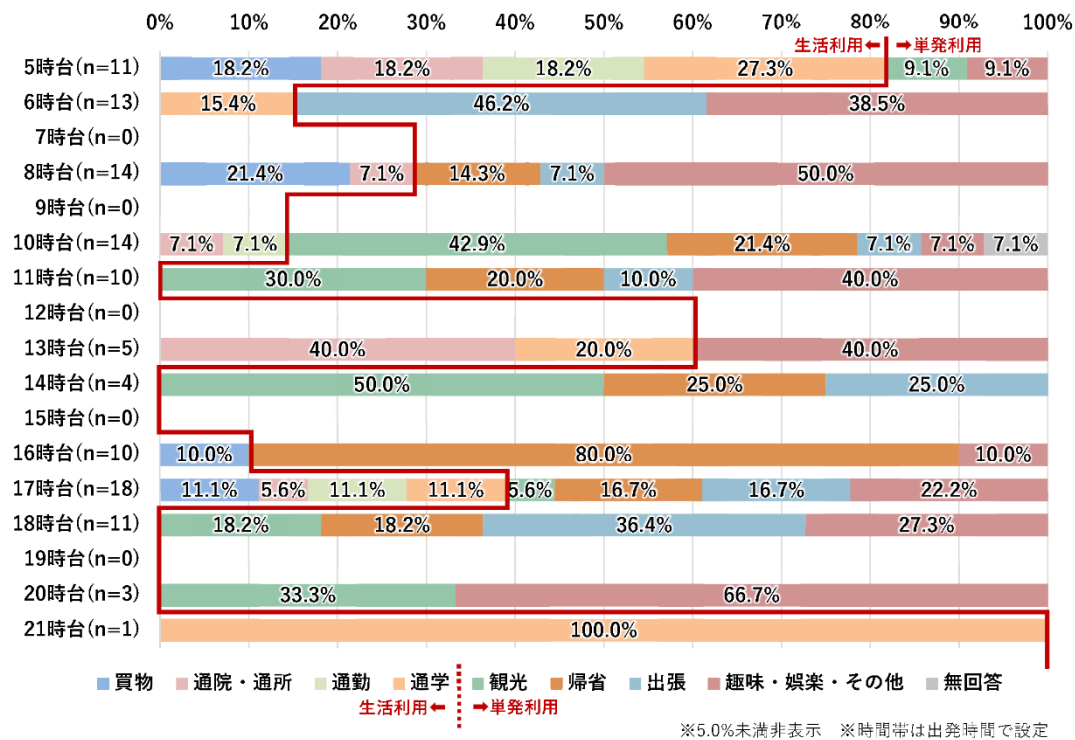
■「電車の乗り換え」と回答があった方の目的別の利用時間帯（平日）



【参考】利用時の不満（電車の乗り換え）

P43

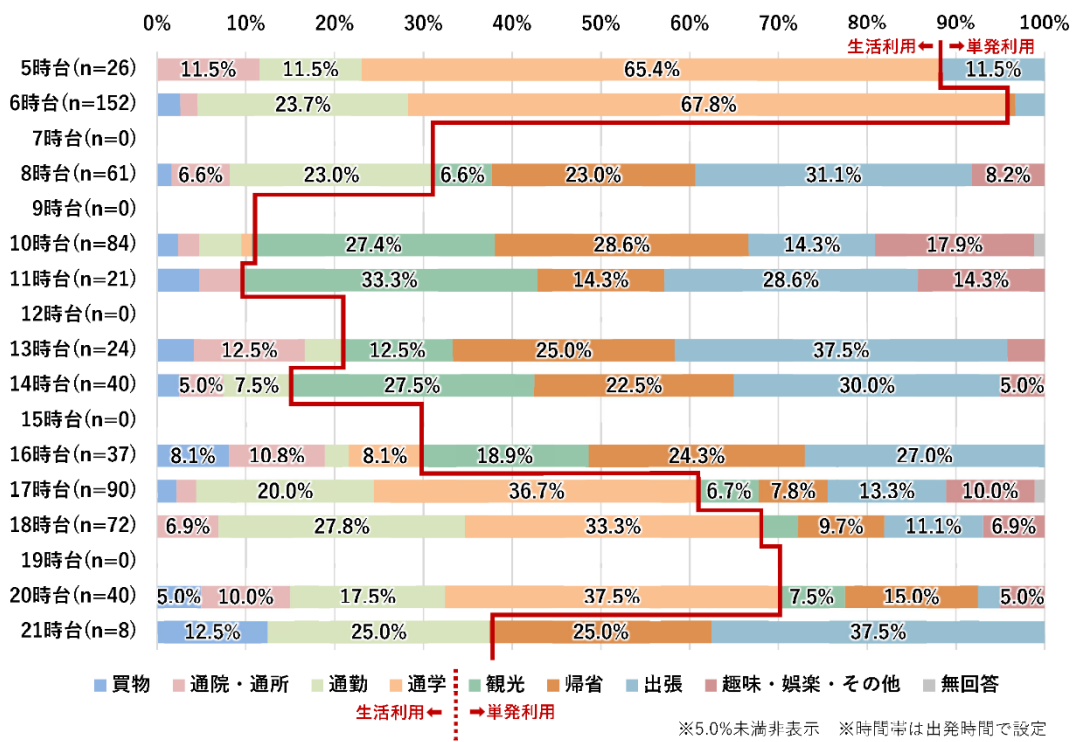
■「電車の乗り換え」と回答があった方の目的別の利用時間帯（休日）



【参考】利用時の不満（便数が少ない）

P44

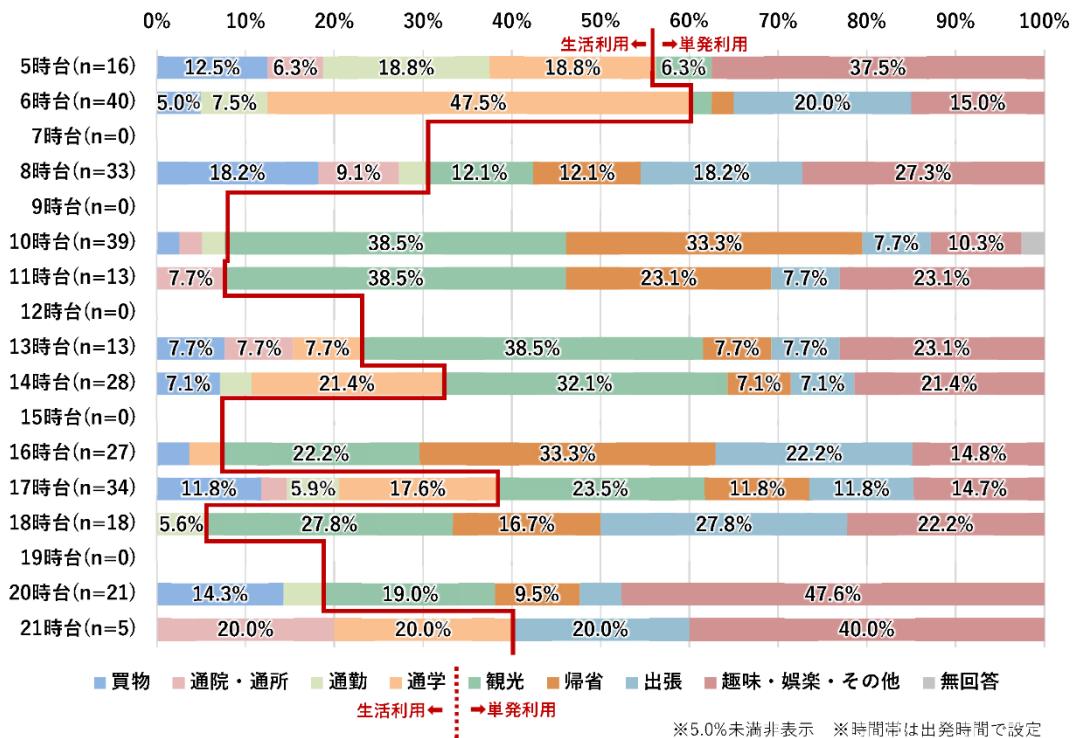
■「便数が少ない」と回答があった方の目的別の利用時間帯（平日）



【参考】利用時の不満（便数が少ない）

P45

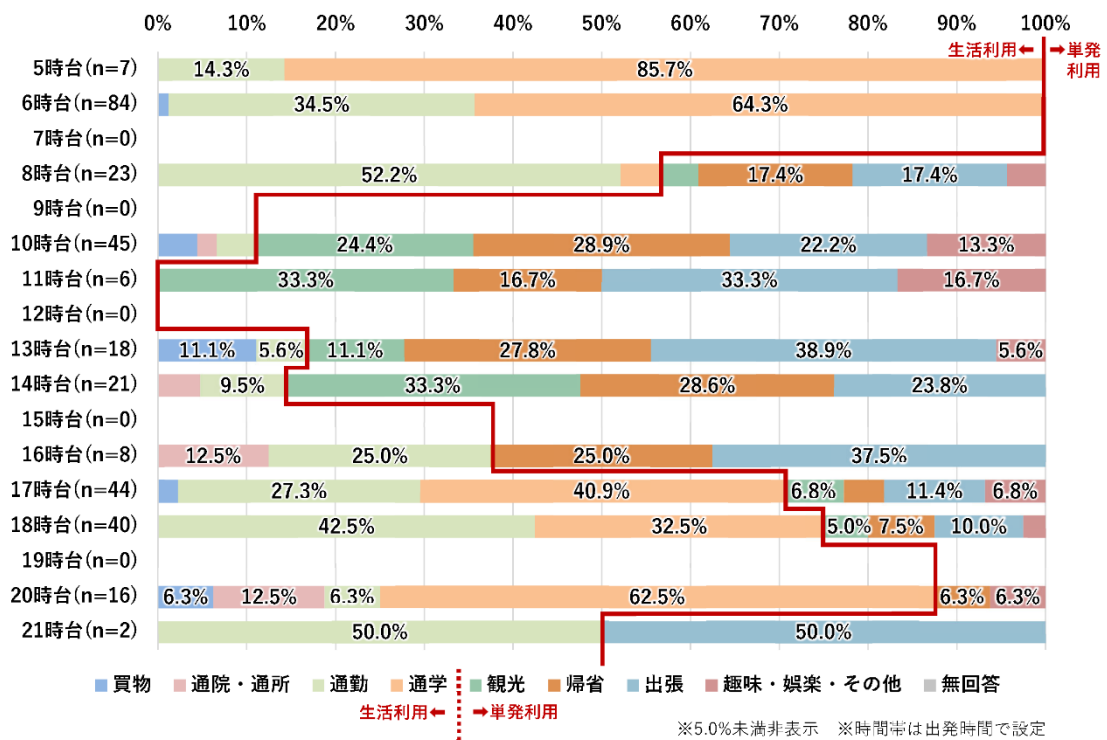
■「便数が少ない」と回答があった方の目的別の利用時間帯（休日）



【参考】利用時の不満（車両が少ない）

P46

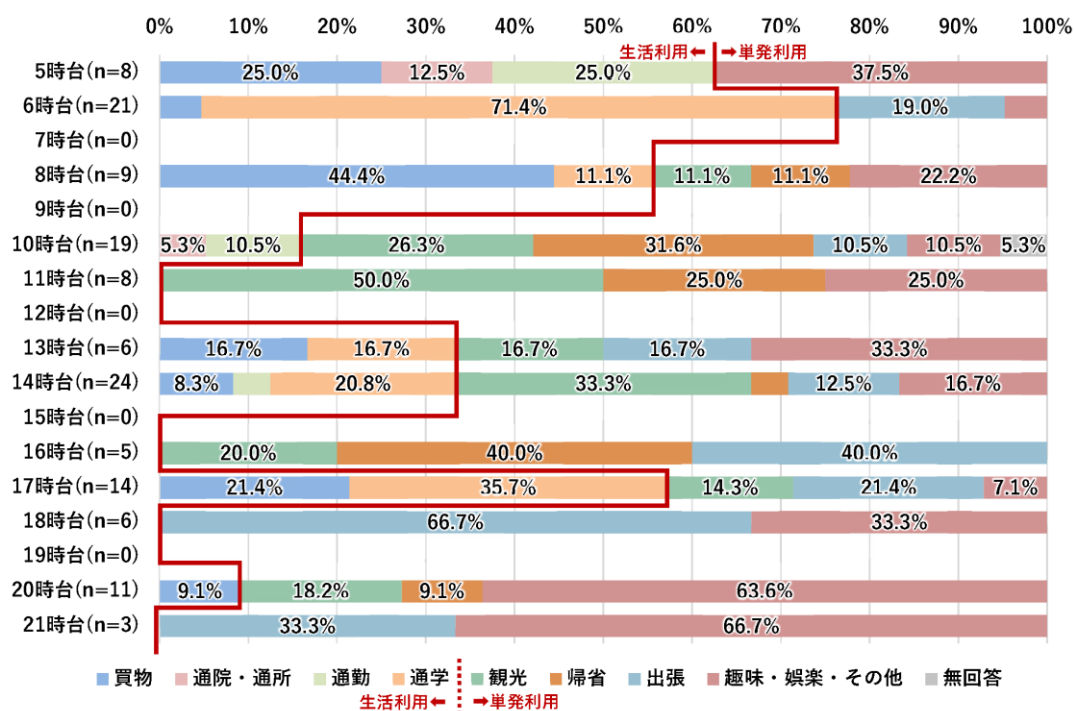
■「車両が少ない」と回答があった方の目的別の利用時間帯（平日）



【参考】利用時の不満（車両が少ない）

P47

■「車両が少ない」と回答があった方の目的別の利用時間帯（休日）



利用時の不満

P48

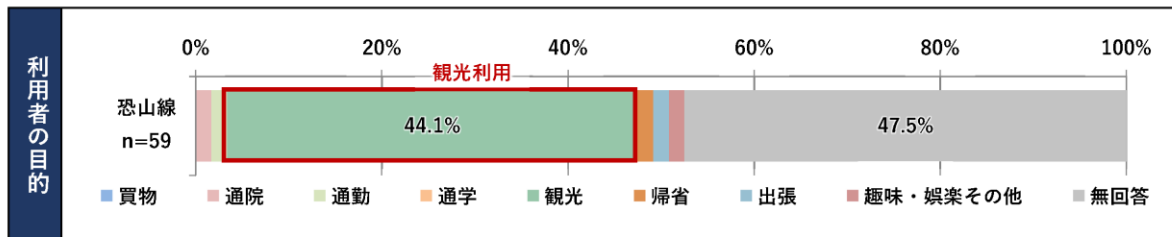
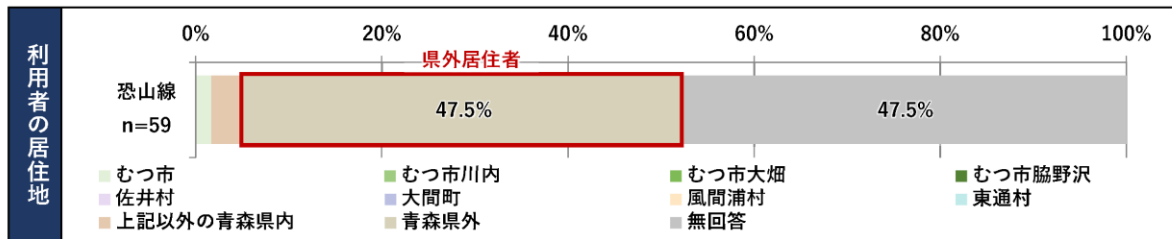
- ・居住地別の不満状況では、県外居住者からの「電子マネーが使えない」という不満が他の地区よりも高い傾向にある。
- ・また、三八地域居住者からは駅および駅周辺の環境に対する不満が高い傾向にある。

	運行内容について								利用環境について							
	電車の乗り換え	便数が少ない	車両が少ない	遅延・運休が多い	目的地へのアクセスがわからない	観光等の情報がみつからない	バスとの乗り換え	駅にタクシーが少ない	運賃が高い	電子マネーが使えない	駅周辺の環境	バリアフリーでない	駐車場のせまい	駅周辺の環境	バスの運行情報がわからない	タクシーの連絡先がわからない
全体 n=1,720	19.4%	54.8%	26.0%	10.1%	1.3%	1.5%	5.7%	4.1%	10.6%	23.1%	4.6%	2.0%	4.4%	5.6%	2.8%	0.6%
むつ市 n=422	30.6%	60.2%	24.2%	15.6%	1.2%	1.2%	4.0%	5.9%	13.7%	23.7%	6.2%	2.1%	14.2%	6.4%	3.8%	0.9%
横浜町 n=291	13.7%	77.3%	42.3%	10.3%	0.0%	0.3%	7.9%	4.1%	21.3%	16.5%	8.6%	0.7%	1.4%	8.9%	2.4%	0.3%
下北地域 n=35	20.0%	40.0%	28.6%	17.1%	0.0%	0.0%	11.4%	2.9%	11.4%	28.6%	5.7%	2.9%	14.3%	5.7%	0.0%	0.0%
野辺地町 n=24	50.0%	54.2%	33.3%	25.0%	0.0%	0.0%	20.8%	0.0%	20.8%	29.2%	4.2%	8.3%	0.0%	4.2%	0.0%	4.2%
三八地域 n=50	40.0%	88.0%	60.0%	32.0%	0.0%	0.0%	2.0%	6.0%	20.0%	30.0%	18.0%	4.0%	2.0%	24.0%	2.0%	4.0%
上北地域 n=19	31.6%	63.2%	68.4%	47.4%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	15.8%	31.6%	0.0%	10.5%	0.0%	10.5%	5.3%	0.0%
その他青森県内 n=116	32.8%	77.6%	47.4%	20.7%	1.7%	1.7%	7.8%	2.6%	5.2%	25.0%	5.2%	1.7%	1.7%	2.6%	2.6%	0.0%
青森県外 n=439	18.2%	65.4%	23.9%	3.4%	3.4%	3.9%	8.7%	5.9%	7.3%	41.0%	2.3%	3.0%	0.9%	5.2%	4.6%	0.7%

※無回答は非表示

【参考】 恐山線の利用状況

P49



利用者の不満

	運行内容について						利用環境について							
	他のバスとの乗り継ぎ時間が合わない	鉄道との乗り継ぎ時間が合わない	バスを降りた先にタクシーがない	運行が遅れる事がある	バスの運行時間が長い	運行便数が少ない	他の利用者のマナーが悪い	乗務員の接客態度が悪い	車内空調が悪い	バリアフリーに対応していない	運行情報が分かりにくい	安心してバスを待てる待合所がない	運賃が高い	電子マネーで支払いできない
恐山線 n=59	3.4%	5.1%	0.0%	1.7%	0.0%	28.8%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	1.7%	23.7%

※無回答非表示

【参考】 JR大湊線沿線自治体アンケート結果（R5年度）

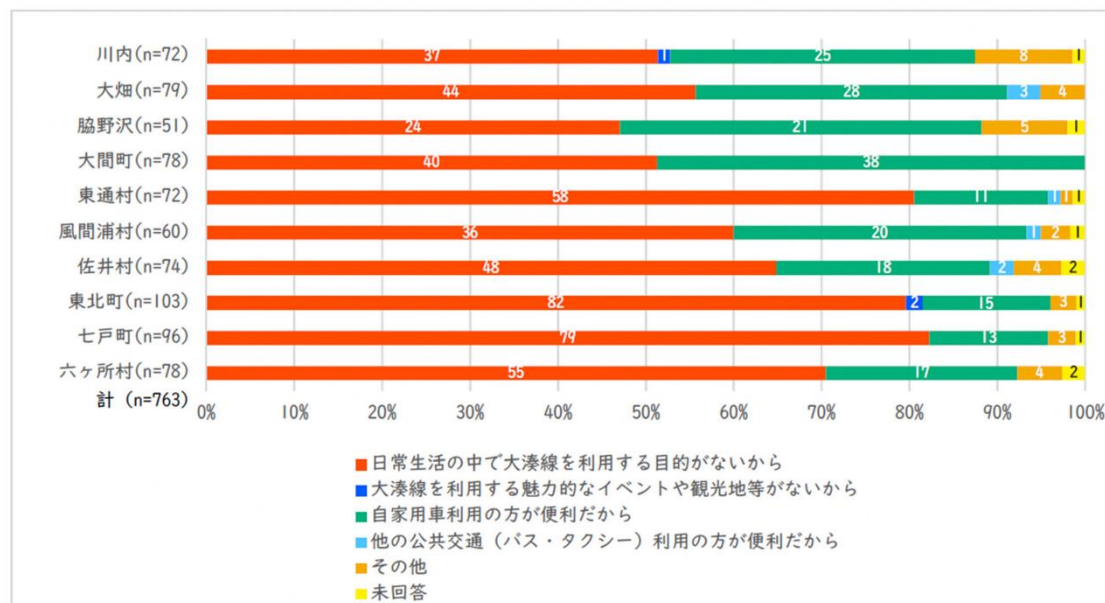
P50

地域	結果概要
むつ市 (旧むつ)	- 路線を利用するとした回答の割合は46.5%であり、主な利用目的として「観光」や「趣味娯楽」の回答が多く、良く利用する曜日は「土曜日」と「金曜日」が多かった。 - また、駅までの移動手段に「自家用車」を回答する者が多く、大湊線に求めるサービス改善として、「八戸駅直通便増便」や「青い森鉄道との乗り継ぎ改善」の次に「駅の駐車場の拡大」を回答する者が多かった。 - 大湊線を週1回以上利用する人は全体の1.9%といった低い結果となる等、むつ市民にとって、大湊線は観光路線としての利用が高い結果となった。
野辺地町	- 路線を利用するとした回答の割合はむつ市及び横浜町に比べると10.6%と低い状況であったが、主な利用目的として「イベント」、「観光」、「通学」や「通院」等といった回答であり、良く利用する曜日は「土曜日」の次に「月曜日」と「日曜日」が多かった。 - また、駅までの移動手段に「徒歩」を回答する者が多く、大湊線に求めるサービス改善策として、「イベント開催時の増便」や「平日運行本数の増便」を回答する者が多かった。 - 大湊線を週1回以上利用する人は全体の18.0%といった高い結果となる等、一部の野辺地町民にとって、大湊線は生活路線であり観光路線であるといった傾向であった。
横浜町	- 路線を利用するとした回答の割合は41.4%であり、主な利用目的として「通院」、「買い物」や「通学」といった回答が多く、よく利用する曜日は「土曜日」次に「月曜日」が多かった。 - また、駅までの移動手段に「徒歩」を回答する者が多く、大湊線に求めるサービス改善として、「平日運行本数の増便」を一番多く回答する者が多かった。 - 大湊線を週1回以上利用する人は全体の36.7%といった高い結果となる等、横浜町民にとって、大湊線は生活路線としての利用が高い結果となった。
下北地域	- 下北地域において、路線を利用するとした回答の割合は34.8%であり、駅までは72.2%が自家用車で移動しており、駐車場の足りないという要望が多い。 - 利用頻度は年1回から3~4回の者が75%以上で、金~日曜日に観光・長距離移動に使用しているという結果である。 - 下北地域にとって、大湊線は生活路線よりも観光路線としての利用が高い結果であった。
上北地域	- 上北地域において、路線を利用するとした回答の割合は4.2%であり、利用しない理由は、「日常生活の中で大湊線を利用する目的がない」という回答が非常に多かった。 - 大湊線の必要性については、60%以上が「必要」と回答しているが、協力できることは「特になし」58.4%という結果であった。 - 上北地域にとって、大湊線は生活路線だけでなく、観光路線としてもあまり使われておらず、他地域よりも路線の利用頻度が低いという結果であった。

(5) 大湊線を利用していない理由

※(I)大湊線の利用状況、①利用の有無で全く利用していない方を対象

※グラフ内数値＝回答件数



今回の調査で把握できていない部分であり、根本的な要因